

「造影剤の管理状況に関するアンケート」

集計結果

調査期間：2021年5月26日～7月16日

調査対象：認定病院患者安全推進協議会会員 1326病院

回答数：245件（回答率18.5%）

回答方法：Web アンケートフォームより回答

無断転載・二次利用を禁じます

【回答者の所属する病院の情報】

1. 都道府県 (n=245)

北海道	7	東京都	23	滋賀県	4	香川県	1
青森県	3	神奈川県	10	京都府	4	愛媛県	3
岩手県	3	新潟県	4	大阪府	18	高知県	3
宮城県	5	富山県	1	兵庫県	14	福岡県	6
秋田県	2	石川県	7	奈良県	3	佐賀県	2
山形県	2	福井県	1	和歌山県	5	長崎県	2
福島県	4	山梨県	1	鳥取県	2	熊本県	3
茨城県	4	長野県	5	島根県	3	大分県	3
栃木県	5	岐阜県	4	岡山県	9	宮崎県	1
群馬県	8	静岡県	6	広島県	5	鹿児島県	6
埼玉県	13	愛知県	15	山口県	3	沖縄県	0
千葉県	11	三重県	1	徳島県	0		

2. 病床数 (n=245)

1	100 床未満	14
2	100 床～200 床未満	54
3	200 床～300 床未満	41
4	300 床～400 床未満	41
5	400 床～500 床未満	32
6	500 床～600 床未満	26
7	600 床以上	37

3. 病院の機能 (n=245)

1	特定機能病院	31
2	特定機能病院以外の高度医療・三次救急を担っている病院	42
3	急性期医療中心の病院	142
4	慢性期医療中心の病院	34
5	回復期リハビリ中心の病院	30
6	精神科中心の病院	4
7	緩和ケア中心の病院	4
8	その他	15

【回答者の情報】

1. 職種 (n=245)

1	医師	6
2	薬剤師	35
3	看護職（保健師・助産師・看護師）	87
4	診療放射線技師	103
5	臨床工学技士	1
6	臨床検査技師	2
7	リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	2
8	事務職	5
9	その他	4

2. 医療安全に関する役割 (n=245)

1	専従（医療安全業務に従事する時間の割合が 8 割以上）	95
2	専任（医療安全業務に従事する時間の割合が 5 割以上）	19
3	兼任（医療安全業務に従事する時間の割合が 5 割未満）	91
4	その他	40

①造影剤を使用していますか？

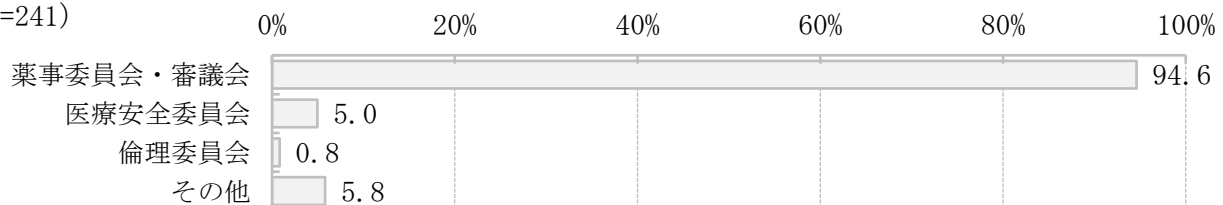
(n=245)

はい	241
いいえ	4

②造影剤の採用状況についてお伺いします。

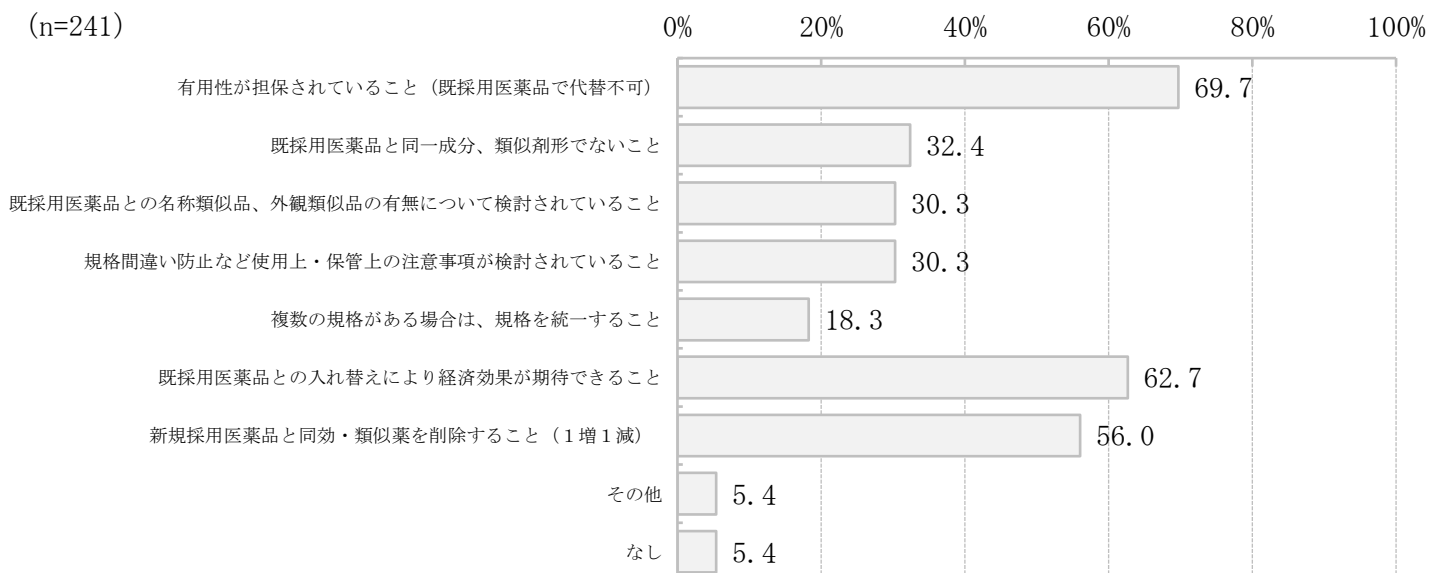
②-1 採用を審議する（した）委員会はどこですか？（複数回答可）

(n=241)



②-2 新規に採用する際の要件や制限などがありますか？

(n=241)



回答 ID	その他内容
20	安定供給
26	入院患者用にジェネリック造影剤を採用する
80	必要最小限度とする
101	新規採用がまだない
113	副作用発生率が低いこと
142	造影剤の変更はしていない
191	医薬品の安定供給。工場、原薬の生産国
199	同規格は過去の副作用を考慮し2製剤まで
215	歯科領域の適応症があること

回答 ID	その他内容
220	後発品の有無
229	安全性が高いこと
233	安定に供給されること
239	安全性担保

②-3 採用している造影剤（MRI 用・ヨード系）の種類・規格の数を記載してください。

(n=78)

回答 ID	MRI 用		ヨード系	
	種類の数	規格の数	種類の数	規格の数
1	2	2	1	2
6	3	2	3	3
7	1	2	2	6
12	3	5	3	10
14	2	3	3	11
15	3	3	4	4
17	8	12	5	35
20	2	6	6	24
27	4	6	9	15
28	5	6	6	20
30	3	4	2	6
32	3	4	3	3
34	1	3	3	5
41	3	3	6	5
52	5	7	7	16
55	2	2	6	8
63	0	0	2	5
66	4	8	11	28
68	5	9	6	29
69	2	2	4	6
70	2	5	2	19
88	1	1	2	6
90	7	7	7	30
99	4	6	8	23
102	3	5	7	15
103	1	1	1	1
106	1	1	3	3

回答 ID	MRI 用		コード系	
	種類の数	規格の数	種類の数	規格の数
109	3	10	3	10
121	2	10	2	10
122	3	4	0	0
125	3	4	2	11
127	3	4	5	7
130	3	4	5	10
133	3	7	7	28
135	3	3	6	12
141	5	8	7	9
143	1	1	2	3
144	3	5	3	4
145	3	5	7	17
160	2	3	1	1
163	3	6	7	14
164	5	6	8	29
165	－	－	11	－
170	3	6	7	13
171	2	3	3	8
172	5	11	5	10
175	1	1	4	12
180	2	3	1	3
181	4	5	3	18
185	6	12	10	27
186	4	6	7	13
187	2	2	3	5
191	4	8	6	20
192	3	6	4	12
193	－	－	1	1
194	5	7	5	12
195	3	8	5	20
203	2	3	5	8
211	2	6	4	3
213	1	1	4	5
214	3	5	7	12
215	2	6	4	4

回答 ID	MRI 用		ヨード系	
	種類の数	規格の数	種類の数	規格の数
220	2	2	7	9
221	4	6	6	16
223	3	4	5	19
224	6	8	8	19
225	3	5	2	6
228	4	5	8	19
232	3	7	3	6
233	3	3	6	13
234	2	4	7	16
236	5	6	9	21
237	2	3	4	9
241			1	3
242	5	8	6	39
243	4	4	7	12
244	5	8	7	21
245	2	5	2	17

③造影剤の管理や常備配置についてお伺いします。

③-1 造影剤を管理する部門は決まっていますか。

(n=241)

決まっていない	13	5.4%
決まっている	228	94.6%

③-2 「決まっている」を選択した方にお伺いします。それはどの部門ですか？（複数回答可）

(n=228)

放射線部門	189	82.9%
看護部門	34	14.9%
薬剤部門	115	50.4%
その他	8	3.5%

③-3 常備配置している部門はどこですか？（複数回答可）

(n=241)

放射線部門 CT 室	225	93.4%
放射線部門 MRI 室	202	83.8%
放射線部門上記以外	33	13.7%

血管造影室	170	70.5%
内視鏡部門	60	24.9%
カテーテル検査室	112	46.5%
透視室	140	58.1%
薬剤部門	94	39.0%
資材部門（用度部門）	5	2.1%
外来	24	10.0%
救急外来	10	4.1%
救急救命センター	9	3.7%
手術室	84	34.9%
ICU	1	0.4%
CCU	0	0.0%
NICU	2	0.8%
NCU（SCU）	0	0.0%
その他（部門名）	12	5.0%
配置していない	1	0.4%

③-4「放射線部門上記以外」を選択した方にお伺いします。

常備配置している場所をお答えください。

(n=33)

回答 ID	放射線部門上記以外（場所）
6	放射線科内薬品管理庫内
17	脳神経外科病棟、健康管理センター
27	オペ室
41	スタッフルーム
42	R I
51	中央操作室
55	X-TV 室前室
56	放射線部門の保管庫
66	X 線 TV 室
69	なし
76	一般撮影操作室 ・テレビ室操作室
80	放射線室：CT コンソールの下
81	操作室
84	放射線科として1か所にまとめて管理している
89	放射線治療計画室
96	放射線部門 RI 室

回答 ID	放射線部門上記以外（場所）
106	放射線部門で使う造影剤は一か所にまとめて管理している
121	中央放射線部等
126	放射線治療部 放射線治療用CTシミュレーター室
153	薬品棚
162	保管庫
167	TV 室(透視室)
169	放射線治療外来
171	透視操作室
189	放射線室
197	健診センター 放射線科
225	結石破砕室
227	放射線部門操作室
236	TV 撮影室
240	放射線治療部門
242	放射線治療室
243	放射線治療部、治療計画用 CT 室
244	処置室前

③-5「外来」を選択した方にお伺いします。常備配置している科・部門名をお答えください。

(n=24)

回答 ID	外来（常備配置している科・部門名）
17	眼科、健康管理センター
20	整形外科
52	泌尿器科
71	泌尿器科、婦人科、眼科
84	泌尿器科
89	小児科 泌尿器科 外科 消化器官
99	外科
100	整形外科、外科、眼科、小児科、産婦人科、泌尿器科
102	泌尿器科
115	外来看護部
118	形成外科、小児科、歯科・口腔外科
133	泌尿器科、産婦人科
134	外来（外来は一つしかない）
139	外来ステーション（科、部門はなし）
146	摂食嚥下リハビリテーション外来

回答 ID	外来（常備配置している科・部門名）
147	整形外科 産婦人科
156	内科 外科 整形外科
160	外来看護部
163	泌尿器科
181	外来処置室
208	整形外科
213	泌尿器科
240	泌尿器科
241	透析外来、一般外来

③-6 常備配置する場合の要件、基準や制限などのルールはありますか？

(n=241)

ない	153	63.5
ある（具体的な内容）	88	36.5

(n=88)

回答 ID	ある（具体的な内容）
1	定数配置
6	規定数
7	保管管理設備、表示方法、定数使用頻度の検討
12	放射線科で管理し撮影室に分配
14	よく使用する場所と毎週在庫管理ができること
15	定数配置による管理
17	薬事委員会で審議
20	内視鏡下で使用するものは内視鏡室保管。 脊椎造影用のものは、整形外科外来、整形外科病棟に保管している。
27	定数管理
28	在庫定数の設定
30	1日で使用する量を開封して準備する
32	施錠できる収納棚に保管すること
34	各部署での定数在庫数管理
41	定数配置
45	定数管理
50	使用する場所
52	定数管理

回答 ID	ある（具体的な内容）
55	配置している部門（CT MRI カテ室 TV 室）でしか使用しない造影剤を置く、造影剤間違い防止のため
63	定数配置
66	頻繁に使用するため、基準や制限はありません。
68	鍵のかけられる場所
69	1 カ所にまとめて管理する
70	SPD（院内物流管理システム）により、各配置場所の定数管理がなされている。
88	採用枠
90	使用量に応じ定数を配置している
99	使用頻度を加味して
102	定数配置
103	使用頻度の高いもの
106	造影検査数に見合った造影剤定数を確保する
109	施錠できる環境であること
121	後発薬を優先する
122	常備配置する部門長と薬剤部長の承認
125	薬剤科に放射線科で保有する定数届けを出す
127	定数管理
130	定数管理
133	定数管理、定期補充
135	使用頻度を考慮
141	発注個数
143	保管位置と数量
144	定数管理
145	検査上必要とされる造影剤および医師から依頼があったもの
146	オーダーすると補充される
160	定数管理
163	配置薬申請書
164	定数配置
165	保温庫に 6 本ずつ保管、使用したら補充。
170	薬剤管理室に届出を行う。施錠を行う
171	定数管理
172	予定検査は前日に確認し、当日朝に払い出す
175	使用頻度
180	施錠できる整理棚

回答 ID	ある（具体的な内容）
181	定数配置
185	定数設定あり
186	施錠できる保管庫
187	規格違いはなるべく減らし注意喚起
191	必要度と使用量
192	定数、温度湿度一定
193	使用期限の近いものから使用・配置する
194	定数管理
195	使用頻度
203	保管庫
211	ストック数、使用期限
213	使用する部門のみに配置する
214	CT. MRI 件数が多い 放射線科で管理
215	ストック数、使用期限
220	定数配置
221	定数管理
223	鍵のかかる棚、床上 20 c m 以上
224	重点管理ハイリスク薬は許可が必要
225	使用頻度が高いところに定数管理で配置している。
228	使用量、金額など考慮し定数化して配置している。
232	数量管理を行う
233	定数はある
234	薬剤科へ配置数を書類申請する
236	病棟配置薬マニュアルにおいて、配置薬の品目・数量については必要最小限となるよう定期的に（年 1 回）見直しを行うこととしている。
237	定数配置・種類の統一
241	年毎に種類、数量の見直しを行うこと
242	部署内にはあるが、病院としての統一ルールは定めていない。
243	数量制限
244	定数薬請求伝票を用い定数管理している。
245	定数配置、毎日確認

③-7 常備配置する際の管理方法、表示や置き方の工夫についてお伺いします。（複数回答可）

(n=241)

施錠して管理している	67	27.8%
専用のカートを用いて管理している	73	30.3%
投与部位別に区分して管理している	33	13.7%
造影剤のバーコードを利用している	15	6.2%
その他（上記以外に工夫していること）	48	19.9%
特に何もしていない	58	24.1%

(n=48)

回答 ID	その他内容（上記以外に工夫していること）
6	保温庫に規定数常備
7	使用用途を表示、規格別の保管の徹底
9	放射線システムで使用量の把握をしている
12	専用の棚で管理
14	専用棚使用
15	造影剤の種類・規格ごとの管理
17	検査室毎に使用薬剤を配置（検査室は目的別になっている）
19	ヨード系は保温ケースに入れている
26	専用の保管庫におき、必要数のみ各検査室にもっていく
27	検査室から使用分に対し SPD が納入管理し
28	部門システムで在庫・ロス等管理
33	一部表示気を付けている
42	夜間に部屋を施錠している
55	そこでしか使用しない造影剤のみ配置
57	加温器の利用
66	薬品名毎、規格毎で区分して管理している。
77	造影剤の種類別に保管
81	種類
91	定位置に置き薬剤名を表示
92	恒温器内に定数管理、それ以外はキャビネット内に入れて紫外線を当てないようにしている
100	各検査で使用する造影剤は混在させず、各検査室ごとに管理
106	造影剤以外の医療用品、事務用品と一緒に棚に管理
111	種類ごとに配置
117	専用の棚やケースなどで管理している
118	棚に名称表記

回答 ID	その他内容（上記以外に工夫していること）
121	専用棚又は指定する保管場所を定め、毎日定数・残数を確認している。
130	専用棚を利用している
133	保温庫に管理
144	薬剤請求した数を PC で管理
146	配置場所の管理
150	扉付きの棚の中に保管しています。
153	他の薬剤と区別
157	放射線操作室内
172	規格をわかりやすく表示：色を変え表示
173	専用の棚
179	各検査室に使用するものを置いている。
186	定数管理と確認
192	室内を施錠、造影剤種類別に区分
195	直近使用は保管庫、他は棚
203	保管庫
207	専用の保温庫や専用の棚に保管している
212	使用場所ごとに置き場を決めている
224	ウログラフィンは注意喚起（脊髄禁）
228	配置する場所、数を設定して管理している。
233	種類ごとに目視で確認出来るようにしている
240	同一製剤をまとめるなど、わかりやすくしている
242	管理ラベルを貼付・運用し、在庫・品質等を一元管理
244	保温庫を利用

③-8 上記以外の配置に関する管理方法、表示や置き方の工夫について何かあればお答えください。

(n=39)

回答 ID	内容
1	施錠ができる棚を使用
6	ラベルを前面に配置
7	定数の場合は使用後の補充について患者専用用紙を電子カルテシステムから発行し、薬剤師が補充を行っている
9	造影剤のラベルが確認できるように、期限の近いものを手前にしている
14	専用棚使用
17	特に注意が必要なもの（脊髄腔は禁忌）などを表記している
22	恒温器に決められた数をいれている。
28	ラベルが見えるように配置する

回答 ID	内容
30	1 番使用する造影剤を開封準備して、他の造影剤はその都度開封する事で取違いを防ぐ。インジェクターか造影剤のバーコードを認証するので濃度を間違えることはなくなった。
35	使用頻度に応じて配置
41	薬剤ごとの定数。箱に使用数の記入
43	造影剤ウォーマーを使用している
46	置く場所に造影剤の種類・容量の表示をして取り違えを防止している
54	特になし
55	カテ室は造影剤を保温器で CT 室でも使用前に保温している
56	ない
57	オムニパーク 240（脳槽・脊髄用）は別の棚で保管し、間違えないように工夫している
62	加温器のそばに配置、加温を忘れないよう配慮している
64	箱単位
66	名称類似や規格の注意喚起をしている（ラベルを貼っている）
67	定数管理をおこなっている。業務終了時に在庫数を記録している。
69	配置を工夫している
77	SPD 室からの補充
78	特になし。
90	使用期限の古いものから取り出しやすく保管している。 保管庫を濃度別に分けている。
100	造影剤の種類、規格をそれぞれ明示し保管
101	透視室の保管場所にはどの検査に使用するのか具体例を表示している
115	薬剤日報（エクセル）管理
127	製造年月日の新しいものを奥に配置する
135	間違いの無いよう注意喚起のポスターを掲示している。
137	造影剤種別で棚分けしている
145	RIS を活用して在庫管理を行なっている。
147	使用するモダリティごと
192	造影剤名称を記入したシールを作成し、添付して混同しないように分かりやすく管理している。
207	専用の保温庫や専用の棚を用いて保管している
212	使用期限が手前となるように、種類ごとにテプラを貼り混在しないように配置している。脊椎用造影剤は放射線科に配置せず、都度持ち込みとしている。
226	使用する前は加温庫に入れている（モダリティ毎に）

回答 ID	内容
228	多規格あるものには規格注意の表示をしている。
238	当日使用する造影剤は保温庫で保管

③-9 常備配置する際の点検についてお伺いします。

(n=241)

特に点検はしていない	40	16.6%
定期的な点検をしている	201	83.4%

③-10 「定期的な点検をしている」を選択した方にお伺いします。どのように点検していますか？

(複数回答可)

(n=201)

定数を確認して記録簿に記録している	118	58.7%
点検は看護師が行っている	54	26.9%
点検は薬剤師が行っている	56	27.9%
点検は看護師と薬剤師が同時に行っている	1	0.5%
点検は看護師と薬剤師が別々に行っている	26	12.9%
点検は診療放射線技師が行っている	128	63.7%
その他	25	12.4%

(n=25)

回答 ID	その他内容
1	定期的な棚卸を行っている
27	SPD
37	決まった保管場所の定数を決め、減った量を週 2 回発注。保管場所から各モダリティに検査担当者が持っていく。半年に 1 度在庫を確認している。
41	事務員
42	点検は薬剤師と S P D が実施している
66	週 1 回は放射線技師が確認している。薬局の造影剤は SPD が管理している。
73	外部委託業者（薬剤 S P D）
86	SPD による定数管理
99	薬剤助手が期限確認と定数補充管理している
110	-
116	薬剤部の事務担当
118	SPD（院内物流管理）が行なっている
136	放射線部の事務が定数と期限を確認している

170	定数の確認後補充を放射線技師が実施している
179	管理栄養士がバリトップの定数の管理を行っている。
181	月に1回、薬剤師が期限切れの有無を点検している
194	薬剤部事務
197	配置している部署のスタッフ
209	物品管理室(薬剤部門)で管理している。
228	定数を基準にして薬剤師の管理下で補助員が行っている。
230	持ち出し数の管理
232	事務
233	薬剤部事務が行っている
234	薬剤科より連絡があった際には、放射線部門看護長が定数確認し記録簿に記載する
242	管理ラベルを貼付・運用し、在庫・品質等を一元管理

③-11（定数を確認して記録簿に記録している場合）記録の頻度をお答えください。

(N=118)

毎日	54	45.8%
週1回	31	26.3%
月1回	17	14.4%
その他	16	13.6%

(n=16)

回答 ID	その他内容
4	週2回
18	週2回
30	週2回
47	薬剤師は月1回、放射線技師は使用時随時
71	週2回
77	年2回
93	使用ごとにチェックしている
116	週3回
118	血管撮影室→毎日、CT室・内視鏡室・外来→週2回
137	週3回
143	3ヶ月に1回
144	定数管理し、不足分の補充時
170	2ヶ月に1度
180	3ヵ月に1回
203	使用時及び毎月9のつく日にチェック
220	平日の毎日

③-12③-7 以外の造影剤の管理や投与について薬剤師（薬剤部門）の関与はありますか？

(n = 201)

1	ない	124	61.7%
2	ある	77	38.3%

(n = 77)

回答 ID	関与していることの具体的な内容
1	薬剤部経由で発注、払い出し
3	定数 副作用の有無
5	新規採用・採用削除の決定
7	上記 毎日定数を専用の用紙を活用し補充管理を行っている
8	棚卸
14	使用期限と不良在庫の確認
17	定数配置以外の部署が請求した場合は、薬剤師が確認してから払い出す
24	月 1 回期限チェック
26	発注・在庫管理
28	副作用報告
30	メーカーへの発注
33	期限管理
34	定数のダブルチェック
39	一部の部署分の払い出し
41	発注・検品は薬剤部で行っている
42	棚卸で在庫確認
47	アレルギーなど副作用発現時、電子カルテに登録し、放射線技師に連絡して情報共有している。
51	薬剤課にて納入し、放射線課に卸す
58	払い出し、在庫、患者ごとのアレルギー確認
61	定期点検
64	定期点検
65	救急カートの薬剤管理
67	月に一度、管理状況の確認を行っている。
69	採用時、日々の管理方法の確認
71	内服と造影剤の関係性、禁忌薬剤をチェック
77	年 2 回定数確認
81	管理（棚卸し、副作用）
85	-
88	発注

回答 ID	関与していることの具体的な内容
91	期限確認
103	-
105	管理場所、定数管理、期限 チェック
106	ウログラフィンのみ薬剤科管理（他院事例で誤注入があったの防止策で放射線科管理から除外
112	期限の管理、入院時の造影剤アレルギー歴の情報共有、中止薬剤の確認
121	使用期限の管理
122	-
128	アレルギーの有無など患者情報提供や薬剤に関する情報提供など
129	-
130	-
138	発注業務
143	受発注・在庫管理
144	採用薬と配置定数
145	薬品の検収等の管理
149	-
153	管理体制のチェック
168	在庫管理、定期的な棚卸し
169	使用期限チェック
170	定数配置していない場合は、オーダーを監査した上で払い出している
180	3 ヶ月に 1 回、放射線技師が定数確認して記録した伝票は、薬剤部が管理している。
181	発注、検品、棚卸、保管方法の点検
182	定数確認と期限チェック
186	在庫数の確認
187	薬剤 SPD が定数補充
189	最終的な使用量と在庫などの確認
193	造影剤の発注
195	造影剤発注は全て薬剤部を経由
196	造影剤を含む放射線関連の医療安全部会の委員として様々な提案を実施
200	-
203	在庫管理
208	注射箋で調剤している
210	-
211	消費期限と在庫数の管理と発注
212	棚卸の時の在庫確認（期限含む）

回答 ID	関与していることの具体的な内容
213	ヨード系は払出時、ピグアナイド系薬の併用をチェックしている。
214	発注
215	消費期限と在庫数の管理と発注
218	使用期限を月 1 回確認
228	造影剤の払出量と使用量を比較し確認している。
230	抜き打ちで使用期限等を確認する
231	定数や発注状況等の確認
235	発注
237	期限切れチェック・定数確認・品目管理
238	使用した分を補充する
240	発注，納入管理，各部門への配給
241	造影剤投与前に服薬チェックを行い 併用禁忌や慎重投与の薬剤を服用していないか確認する
242	アレルギー歴の聴取・登録、併用注意薬剤の情報提供、定数配置薬の申請受付など
245	発注

④造影剤の指示出しについてお伺いします。

④-1 造影剤の指示出しは誰が行いますか。(複数回答可)

医師	199	82.6
包括指示を受けた看護師	18	7.5%
包括指示を受けた診療放射線技師	98	40.7%
その他	3	1.2%

(n=3)

回答 ID	その他内容
211	歯科医師
215	歯科医師
224	すべての造影剤をプロトコル化している

④-2 造影剤の指示出し時の安全対策や工夫はありますか？

(n = 241)

ない	27	11.2%
ある	214	88.8%

④-3「ある」を選択した方にお伺いします。どのような安全対策や工夫をしていますか？

(複数回答可)

(n=214)

電子カルテの注射オーダーリングシステムを利用している	34	15.9%
電子カルテの画像オーダー時に同時にオーダーしている	99	46.3%
紙面による造影剤指示書を利用している	28	13.1%
紙面による造影検査指示書内で同時に指示できる	17	7.9%
腎機能を事前にチェックできる仕組みがある	166	77.6%
造影剤アレルギー・副作用情報を事前にチェックできる仕組みがある	200	93.5%
メトホルミン製剤をチェックできる仕組みがある	158	73.8%
β遮断剤服用有無をチェックできる仕組みがある	61	28.5%
禁忌病名（甲状腺疾患など）をチェックできる仕組みがある	130	60.7%
その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）	23	10.7%

(n=23)

回答 ID	その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）
1	電子カルテ上で造影剤同意書をチェック。上記の確認をしている
15	過去の副作用の記録
17	過去にアレルギー反応があった場合は、電子カルテのコメント欄に記入
20	造影剤の同意書の確認。ヒグアナイド系の確認。
27	患者問診、同意書
29	造影剤同意書にチェック項目がある
51	過去の使用薬剤、注入量や速度を個別ですべて記録している。
126	指示の造影剤との照合を診療放射線技師と看護師とでダブルチェックしている
153	放射線科のシステム内に一覧を作成し、選択できるようにしている
165	患者に医師が検査時に説明して同意書にサインをもらっている。
180	CT 造影検査、MRI 造影検査では、患者の体重によって容量を使い分けている。
182	部門システムを用いて放射線診断科医師が指示している。
183	2日前と当日にチェックする。
192	RIS にてオーダー
194	造影剤説明と同意書の事前確認
225	同意書内でもチェックしている。
232	医師、看護師、診療放射線技師のトリプルチェック

回答 ID	その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）
233	手術室では、使用直前にも医師・看護師でダブルチェックしている
234	電子カルテのコメントや放射線検査の指示書に記載されている
235	・放射線部門システムにオーダー入力している ・口頭指示受け用紙を使用している
242	説明同意書を用いた禁忌・リスク因子チェック
243	RIS（放射線情報システム）で指示
244	予約患者に対しては前日に電子カルテにてチェックを行い、リスク患者を把握。 禁忌患者造影時のフローを作成。

④-4「電子カルテの注射オーダーリングシステムを利用している」を選択した方にお伺いします。
それは、全例に適用ですか。一部例外の取り扱いもありますか（部署別の伝票運用併用、薬剤別のオーダー方法併用 等）。

(n=34)

緊急例なども含めて全例に適応	28	82.4
一部例外の取り扱いもある	6	17.6

(n=6)

回答 ID	一部例外の取り扱いもある（具体的な内容）
3	-
11	緊急時は口頭指示（手順あり）となることがある
107	薬剤別のオーダー方法併用
115	緊急時
197	新患の緊急例
242	放射線科以外の診療科医師による注射オーダー

④-5「電子カルテの画像オーダー時に同時にオーダーしている」を選択した方にお伺いします。
それは、全例に適用ですか。一部例外の取り扱いもありますか（部署別の伝票運用併用、薬剤別のオーダー方法併用 等）。

(n=99)

緊急例なども含めて全例に適応	89	89.9%
一部例外の取り扱いもある	10	10.1%

(n=10)

回答 ID	一部例外の取り扱いもある（具体的な内容）
17	心カテについては、禁忌以外は固定指示となっている

回答 ID	一部例外の取り扱いもある（具体的な内容）
89	緊急の救急患者撮影時
91	紹介患者の事前検査予約
96	特定の造影剤にアレルギー等がある場合のみ、オーダー入力する
112	緊急時は口頭と紙
115	-
147	注腸
188	診療科により異なる
194	後から口頭で造影指示が出ることもある
234	あらかじめ決めている造影剤を使用する

④-6「紙面による造影剤指示書を利用している」を選択した方にお伺いします。

それは、全例に適用ですか。一部例外の取り扱いもありますか（部署別の伝票運用併用、薬剤別のオーダー方法併用 等）。

(n=28)

緊急例なども含めて全例に適用	20	71.4%
一部例外の取り扱いもある	8	28.6%

(n=8)

回答 ID	一部例外の取り扱いもある（具体的な内容）
28	救命救急センターの初療患者
35	休日や夜間緊急検査時
44	時間外では利用していない
52	夜間の使用制限
115	緊急時
221	救急、当直時間帯、休日
226	（極めてまれであるが）緊急時は造影剤指示書がない場合がある。
238	時間外の検査や救命センターは例外

④-7「紙面による造影検査指示書内で同時に指示できる」を選択した方にお伺いします。

それは、全例に適用ですか。一部例外の取り扱いもありますか（部署別の伝票運用併用、薬剤別のオーダー方法併用 等）。

(n=17)

緊急例なども含めて全例に適用	13	76.5%
一部例外の取り扱いもある	4	23.5%

(n=4)

回答 ID	一部例外の取り扱いもある（具体的な内容）
28	救命救急センターの初療患者
59	緊急時のみ口頭指示で、事後指示書へ署名
112	緊急時
115	緊急時

④-8「腎機能を事前にチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=166)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に腎機能確認が組み込まれている
2	あらかじめ電子カルテでチェック
6	検査数値直近3カ月内をオーダー時に表示。 また、依頼伝表リストにも表示している。
9	放射線システムに腎機能が表示される。 腎機能が低下している人は「△」が表示される。
12	電子カルテ、RISにeGFRの表示があり確認できる
13	電子カルテおよび部門システム（RIS）による血液データ参照
14	問診表記入時に患者の聞き取りと検査数値確認
15	eGFR及びCrの1根にないの検査結果
18	検査前に診療放射線技師が電子カルテをチェックしRISにeGFRの数値を入力している
20	RIS:放射線システムにBUN, Creチェックできる。 HIS:電子カルテをチェックできる。
23	検査依頼票に電カルとリンクして腎機能値が表示される
24	電子カルテの検査データを放射線科二次システムで確認できる。eGFR低値の場合、二次システム展開時にアラートがでる。
25	検査当日、1時間前に採血、結果を看護師が確認する。
26	血液検査結果と推定eGFR値を放射線部門システムに取り込み、腎障害の程度（3段階）によって色分け表示される
27	eGFR60以下は減量 eGFR30以下は補液
28	電子カルテ上、部門システムでの帳票出力。画面上でも表示。（前日に週日の患者一覧に記載される）
29	電子カルテにてクレアチニン値を技師がチェックすることが決められている。チェック後にカルテに記載。
30	検査前に過去2週間以内のeGFRをRISで確認できる。

回答 ID	具体的な内容
31	問診票による確認、電子カルテ情報を RIS 端末に反映する
33	オーダー時腎機能を医師が入力する必要がある
34	放射線科部門システム上に直近の eGFR が自動表示される
35	電子カルテによる検査依頼時にチェック可能
36	問診票に腎機能*値記入欄がある
37	RIS、電子カルテ上で eGFR が表示される
39	問診表に腎機能検査の値を記載
41	電子カルテから、依頼書を出力するが、依頼書に表記される
42	電子カルテ上で検査歴から腎機能を確認する (eGFR)
44	腎機能を測定しなければ検査できないというルール
51	血液データもみられる PACS を使用している。
52	担当者がカルテを確認する
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	eGFR 数値記載項目あり、必ず検査前に確認できる (検査説明・同意書内に)
57	同意書・問診票にてチェック
58	Cr を必ず確認することになっている。
59	問診表で確認
61	医師と放射線技師による問診票のチェック
64	電子カルテ 同意書
65	クレアチニンチェックを行っている
67	造影剤問診票同意書によるチェックと電子カルテによるチェック。
68	R I S (放射線システム) と造影剤問診表を利用
69	電子カルテ上に最新の eGFR の数値の表示、同意書に自動表示している
70	造影検査オーダー時に医師が確認し、前日又は当日の検査内容確認時には看護師及び放射線技師が確認している。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
72	オーダー時に確認済みチェックを入れないとオーダーが完了しない
73	問診票による医師の確認
75	電子カルテ参照, 問診票参照
76	放射線オーダー上で腎機能をチェックできる。
77	クレアチニン (eGFR) の値
78	電子カルテにて eGFR の値を確認、及び問診票にて確認を行っている。
79	検査オーダー時にチェックリストを入れてもらう

回答 ID	具体的な内容
80	事前に血液検査を実施、チェックすることを必須としている。
81	同意書内
83	オーダー時に eGFR とクレアチニンを確認する項目がある
85	CT 同意書の問診欄。予約の 1 週間前にリスト作成（アレルギーや特記事項、禁止肢位等）し放射線科医に確認してもらう。電子カルテの採血データ、e-GFR。RIS。
86	検査依頼時の注意文書による周知 担当看護師による確認
87	同意書にデータが記載されている
89	eGFR の表示がある
90	電子カルテより eGFR 値（3 ヶ月以内）で 30 以上であることを確認している。
91	紙面に腎機能を記入する項目を設けている
92	年齢、性別、GFR から EGFR を算出して適切な造影量を決めている
93	検査前の同意書、問診書に半年以内の eGFR 値を記載する
94	検査結果を RIS に反映
95	電子カルテ及び同意書にてチェック
96	画像オーダー時に腎機能をチェックする項目がある
97	GX（電子カルテ）上で確認
99	問診票
100	電子カルテの腎機能の値が、放射線システムに添付される
101	腎機能検査を実施している場合には検査オーダー時に電子カルテで確認できる。表示されない場合は腎機能検査を実施していないことを意味する
107	採血結果を参照できる。入力しないとオーダーできない
108	検査の依頼紙に数値の記載があり、前日に確認をしている。
109	放射線部門システム（RIS）からの検査準備票にクレアチニン値が記載されている。
110	造影検査同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	電子カルテの腎機能欄チェックがないとオーダーできない
112	以前の造影剤同意書と採血結果の確認
114	検査前 3 ヶ月以内に腎機能を測定する
115	血液検査結果事前確認
117	HIS から RIS へ直近の採血データが入力される。
118	電子カルテ内でチェックできる
120	HIS, RIS の Cre, GFR 等の表示、問診での確認。
125	電子カルテ上のチェックリストで確認
127	同意書の文書内に「e-GFR」値を記載する箇所がある
128	同意書で腎機能障害の有無を確認している。腎機能が悪い場合は事前に eGFR を評価する。

回答 ID	具体的な内容
129	放射線依頼表にオーダー時に結果が出ていれば直近の BUN、Cre が印字される。問診票でチェック欄が設けてある。
130	放射線情報システムまたは電子カルテにて確認
131	採血結果でチェックしている
133	電子カルテと RIS が連動しているため容易にチェックできる
134	オーダー時にチェックリストが表示される
136	同意書
139	医師によりクレアチニン値を記載した紙面が検査に届く
140	入院患者にのみだが、薬剤師が電子カルテに付箋機能を使って表示している
141	電子カルテに腎機能が表示される 同意書にも腎機能を記入
142	造影剤検査同意書にチェックする項目がある
144	検査オーダー画面で確認できる
145	直近 3 か月以内の eGFR 値を問診同意書内に記入することをルール化している。また、予約検査は前日にカルテで情報収集を行なう。緊急時は RIS で eGFR 値を確認する。（検査困難な場合のみ Cr. でも可）
147	造影剤指示書に記入欄があるので記入しておき医師にチェックしてもらう
149	電子カルテより採血結果を確認できる。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	検査実施する 1 ヶ月以内に腎機能検査実施
152	全例に適応
154	電子カルテ上の eGFR が RIS 上で参照できる。3 か月以内を有効期限としている。また、前日に看護師がカルテでも確認している。
155	クレアチニンの値をチェックして、同意書に記入するルールになっている。
156	採血結果より eGFR の算出し HIS、RIS に反映される
158	クレアチニンキットにて測定
159	診断 RIS 画面に表示される
160	クレアチニンの採血を行っている
161	技師が電子カルテにより腎機能の値を事前に確認し指示書へ記載
163	放射線部門システムに血液データを反映でき、腎機能が確認できる。
166	造影前には必ず腎機能を測定し、検査受付時に RIS に取り込まれる。その数値を目視し検査を施行している。
167	電子カルテを開いて必ず確認し、同意書にデータ記入欄がある。RIS の画像システム内にも最新データが確認できるようになっている。
169	放射線部門システムに採血結果（腎機能）が反映される
170	3 ヶ月以内の腎機能のチェックを放射線技師・看護師がそれぞれ確認している。
171	問診票に記載欄があり、検査前にチェックしている。

回答 ID	具体的な内容
172	検査オーダー画面で、クレアチニン、eGFR 値を選択させる
174	電子カルテ
176	同意書および問診書にチェック項目がある。電子カルテでチェックできる。
179	検査直近の結果のが同意書に自動的に反映される。
180	造影剤同意書の発行にて、3 か月以内の腎機能 e-GFR を記入する欄がある。
181	オーダー時に、クレアチニン値の結果と検査日が入力画面に反映する。腎機能障害の有無というチェック項目がある。
182	部門システムから電子カルテに問い合わせを行い、eGFR 等を表示させている。主に前日夕方に Ns や Dr がチェックを行っている。
183	電子カルテオーダー時と RIS 画面撮影時に表示される
185	オーダー画面に表示するように設定
186	腎機能データが、検査オーダー時にひも付けされ依頼票に印字される
187	電子カルテ確認
188	問診表はクレアチニンか eGFR 値を入力する。
189	電子カルテ上で採血結果を確認する
190	検査オーダー時にチェックをしないとオーダーができないシステムにしている
191	腎機能を事前の採血で確認し、RIS コメントに記録している。放射線診断科の検査では直近 3 か月以内の採血結果が必要と取り決めている。
192	電子カルテ上に表示される
193	電子カルテ内血液データ・造影検査問診票
194	直近の S-Cre、eGFR を表示させている
198	問診票に e-GFR、Cr を記載してもらう
200	eGFR の数値がオーダー画面に自動的に記載される
201	3 ケ月以内の採血データで腎機能を事前にチェックする。もし、採血データがなければ、腎機能検査を行い、結果が分かるまで検査を行わない。
203	問診票にて確認。オーダー時に自動で問診票作成
204	同意書によるチェック
205	3 か月以内の採血データ (eGFR)
207	電子カルテより部門システムでデータを受け取り確認できる
209	PIS および電子カルテを参照し、タイムアウトを行っている。
210	問診票に記載する
211	e G F R の算出
212	造影検査依頼時にチェックリストに GFR 確認欄、同意書に GFR を記入するルールとしている。
213	造影 CT・MRI 依頼時にオーダー上でチェックを入れている。検査の同意書にも記載されている。

回答 ID	具体的な内容
214	電子カルテで造影剤をオーダーする際にチェックを入れる
215	e G F R の算出
216	eGFR 値が採血時に算出される
217	前日にカルテでチェック
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
224	直近 3 ヶ月以内のクレアチニン値が部門システムに反映される
225	同意書内に医師が eGFR 値、採血日を記入する欄を設けている。電子カルテ内に同意書をスキャンし放射線技師も確認している。
226	腎機能は基本、前日に確認し、指示書に記載している。腎機能がなければ（悪ければ）当日結果が出てから造影をするかを決定する。
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	検査オーダー時に印刷される問診票でチェックする
230	RIS よりデータを確認する
231	電子カルテに記入された GFR 等の値が放射線科情報システム（RIS）に反映表示される。
232	eGFR Cr 数値情報
233	造影剤の使用前に「問診票・同意書」でチェック欄と腎機能データを入力する項目があり、データの入力がないとカルテ保存ができず確認できない
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	「造影剤使用に関する主治医確認票」に記載。
238	オーダー画面で eGFR が表示される（検査前日に確認）
239	電子カルテ R15 で表示
240	電カルオーダー時、造影剤同意書記載画面で腎機能（eGFR）が確認できる
241	問診表にチェックする項目を設けている
242	放射線部門システムと検体システムを URL 連携し、放射線検査室で常時確認する仕組み
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。最新情報は部門システムでもチェック可能。
245	eFGR 値でチェックを行う

④-9「造影剤アレルギー・副作用情報を事前にチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に腎機能確認が組み込まれている
2	あらかじめ電子カルテでチェック
3	医師による造影剤問診
5	チェックリスト作成
6	電子カルテ及び依頼表にアラートが表示される。
7	電子カルテシステム内に禁忌チェック項目として設定済み
9	放射線システムに表示される。ヨードアレルギーはわかりやすく表示される。
10	電子カルテに項目設定（アレルギーのアイコン設定） 事前に患者聞き取り
11	問診、アレルギー歴等の情報が電子カルテ上にあり確認でしている
12	アレルギー登録すると、オーダー時警告が出る
13	電子カルテのアレルギー情報
14	電子カルテに登録し問診票にて患者確認
15	RIS および電子カルテの記録を参照
17	禁忌情報欄に記入し、情報を共有している 予定入院患者は、事前に聞き取り作業を行っており、アレルギー情報についても確認することになっている
18	問診票、電子カルテ、RIS にてチェック。またアレルギー症状が出た患者は RIS のコメントに記載して次回以降表示される。
20	RIS:放射線システムにコメントがあれば見れる。 HIS:電子カルテのプロファイルに記載がある。
21	電子カルテ「造影剤によるアレルギー登録」に入力している
23	検査依頼票に電カルとリンクして禁止薬剤が表示される
24	電子カルテのアレルギー等情報を放射線科二次システムで確認できる。アレルギー等情報は赤で表示される。全例問診表でも確認している。
25	電子カルテで、患者を検索するとアレルギー暦を最初に見ることができる。
26	検査前に患者基礎情報をチェックし、放射線部門システム内に記録する アレルギー発生時は患者基本情報の造影剤アレルギー情報記入欄に記載し、中等度以上のアレルギーでは造影検査オーダーができない仕組みになっている
27	電子カルテに記入で RIS に反映
28	部門システムの患者情報（技師） 電子カルテの副作用情報（医師・看護師）等。
29	電カルに禁忌・アレルギーが表示される仕組み
30	RIS 上で過去のアレルギーを確認でき、その時の造影剤の種類も分かる。
31	問診票による確認、電子カルテ情報を RIS 端末に反映する
32	病院システムと放射線科のシステムでの連携をもたせ、禁忌の場合は表示されるようになっている。
33	禁忌登録されていたらエラーがかかる

回答 ID	具体的な内容
34	造影剤アレルギー歴がある人は検査オーダーを入れるときに注意メッセージが表示される
35	電子カルテによる検査依頼時にチェック可能
36	問診時と電子カルテで上で確認
37	RIS、電子カルテ上でアレルギー、体内金属の有無が表示される
38	電子カルテの患者基本情報を共有している
41	電子カルテでアレルギー情報を確認する
42	患者に問診票を記入してもらう。過去にアレルギーや副作用があった場合は電子カルテ上に登録されておるので確認する。
44	電子カルテにアレルギーチェック機構がある。問診でチェック。
46	診療録に記載あるため、医師が指示を出す際に参照する。
51	検査前に過去画像の確認必須であり個別の造影剤使用歴と電子カルテの確認も行っている。
52	担当者がカルテを確認する
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	チェック項目あり、必ず検査前明・同意書内に）に確認できる（検査説
57	同意書・問診票にてチェック
58	造影剤使用時は説明・同意書をもらっているので、造影剤でのアレルギー歴を確認できる。
59	問診表で確認
61	医師と放射線技師による問診票のチェック
64	電子カルテ 同意書
65	本人もしくはわ付き添いに問診によりチェックしている
66	説明文にて説明し、問診票に記入してもらっている。（患者本人、または家族に）
67	造影剤問診票同意書によるチェックと電子カルテによるチェックと部門システムによるチェック（過去歴を残している）。
68	R I S と問診表を利用
70	電子カルテ上のアレルギー項目が放射線部問システム上にも表示される。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
72	電子カルテの禁忌欄で参照可能
73	電子カルテのアレルギー情報登録
75	出んしカルテアレルギー情報参照

回答 ID	具体的な内容
76	以前にアレルギーや副作用等を発症した方は放射線オーダー上の患者情報に追記できるような仕組みになっている。
77	電子カルテの患者プロファイルのインフォメーションで造影剤の副作用が確認できる。電子カルテを開いた際に造影剤副作用がある患者では画面に強制表示される。
78	電子カルテにて、禁忌情報が表示されるようなシステムになっている。
79	検査オーダー時にチェックリストを入れてもらう
81	オーダー時チェック
82	禁忌登録より
83	オーダー時にヨードアレルギーをチェックする項目がある
84	電子カルテにアレルギー、副作用情報が示されている
85	電子カルテのアレルギー欄の確認。RIS には前回造影時の使用造影剤、副作用の出現などがあった場合詳細な内容が残っている
86	電子カルテアレルギー情報（アイコン表示） ヨード造影剤検査問診票による確認
87	同意書に記載されている
89	オーダー画面上に以前の造影剤による副作用の表示がある
90	電子カルテの患者プロファイル、放射線部部門システム（RIS）の患者情報を確認し事前に情報共有している。
91	気管支喘息の有無や以前に造影剤で副作用があったかを紙面に記載する
92	電子カルテ内の患者基本情報内に入力して、院内の部署で共有している
93	検査前の同意書、問診書にアレルギー、副作用の有無の記載をしている。
94	オーダーリング患者基本情報
96	電子カルテでアレルギー等を登録していると、オーダー時に警告が出る
97	造影検査オーダー時の問診表に、アレルギー・副作用のチェック項目
98	電子カルテで問診票などが確認できる
99	問診票。入院患者は入院時に薬剤師が確認。
100	電子カルテの患者基本情報に、様々なアレルギーが入力され、確認できるようになっている。
101	検査オーダー時の問診票で確認。副作用があれば電子カルテに入力するため、副作用の既往を参照できる仕組み
102	HIS では、造影検査を予約するときメッセージが表示される
104	電子カルテの患者情報にアレルギー入力するとアイコンが付き薬剤内容も分かる。放射線部門と情報共有されるシステムで確認ができる。問診表に造影剤アレルギーの記載欄がある。副作用について症状の一覧が貼られ内容確認ができるようになっている。
107	アレルギー情報が表示される
108	当院で発生したものは RIS もしくは HIS に入力し、参照できる。

回答 ID	具体的な内容
109	過去のアレルギーがあれば放射線部門システム（RIS）に履歴を残すことで事前にわかる。
110	造影検査同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	造影剤アレルギー・副作用の欄にチェックがないとオーダーできない
112	以前の造影剤同意書と放射線システムの患者情報の確認
113	副作用歴がある場合は、電子カルテの患者基本欄に入力されている。またオーダー時に警告が上がるシステムとなっている。
114	電子カルテに表示している
115	造影剤同意書確認
116	オーダーシステムに表示と画像オーダー時のチェック項目
117	それらの情報は HIS に入力されると RIS にも反映される。
118	電子カルテに該当情報を登録している
120	HIS, RIS のコメント、問診
121	電子カルテにアレルギー情報が入力され、情報を共有しているため
122	電子カルテのプロファイルでの共有
123	電子カルテシステムと連動 アラート設定あり
124	問診票
125	電子カルテ上のチェックリストで確認
127	オーダーリングの中にチェック項目があり、チェックをしないとオーダーできない
128	同意書でアレルギー副作用の有無を確認している。電子カルテ内の患者基本情報にアレルギー・造影剤禁忌の項目がありチェックしている。
129	電子カルテ上で前回の記録を確認。使用禁忌薬剤のマークが付く。
130	電子カルテより確認
131	アレルギーがあれば電子カルテ上にアのマークが赤字で表示される、
133	電子カルテと RIS が連動しているため容易に閲覧できる
134	カルテの最初の画面で表示される、オーダー時にチェックリストが表示される
136	同意書
137	電子カルテ内 「患者プロファイル」の「造影剤アレルギー」情報に記載があれば造影検査オーダー時に「警告」表示される。
139	医師が電子カルテにオーダー時、アレルギーのチェックボックスがある。
140	造影検査時は毎回同意書を取り、同意書内にアレルギーや副作用の記載欄がある。
141	電子カルテでバーコードを読み取り時に、ポップアップが出る
142	電子カルテでチェックできる
143	オーダーとともに、説明・同意書、問診票が印刷され、問診票に設問がある。
144	検査オーダー画面で確認できる

回答 ID	具体的な内容
145	予約検査は検査前日にカルテで情報収集している。 造影検査でのアレルギー既往がある場合は RIS で管理されているため、緊急でも確認できる。 問診票や看護師からの情報を得る。
147	④-8 と同じ
149	過去に副作用があった時には電子カルテでオーダー時にポップアップが出る。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	問診票・同意書、電子カルテの特記事項欄にアレルギー・副作用の入力。
152	全例に適応
154	カルテ上のアレルギー歴を RIS で参照出来るようにしている。前日に看護師がカルテでも参照している。
155	電子カルテの患者基本情報にアレルギー入力欄がありチェックができる
156	過去に造影剤アレルギーがあった場合には、HIS, RIS に既往歴を残している。また、造影剤副作用情報用紙に記載し DI 室へ報告し電子カルテの患者基本情報へ登録している
157	造影問診票にて副作用チェックを行っている
158	電子カルテ内にて記録されている
159	診断 RIS 画面に表示される
160	問診表を用いている
161	技師が事前に過去検査歴や指示書(医師によるアレルギーチェックの記載部分あり)で確認
163	同意書にアレルギー情報や副作用情報の記載項目がある。カルテと同意書を確認する手順としている。 既存のアレルギーや副作用は放射線部門システムに登録できる。
165	アレルギーは電子カルテに入力されている。検査時にアレルギーの確認をする。
166	造影剤アレルギーがあれば起こった際に主治医がアレルギー欄に日付と薬剤名を記載する。それが RIS にも表示される。
167	アラート機能を参照して確認。また造影歴をカルテ上で確認している。
168	電子カルテ内の患者情報にアレルギー項目と付箋の様式での表示が出る
169	放射線部門システムに病院情報システムのアレルギー情報が反映される。また、放射線部門システムのコメント機能を活用している。
170	看護師が問診用シートに記載するとともに、放射線室において電子カルテ上での禁忌事項項目、既往歴の確認を実施
171	電子カルテにアレルギー情報がある。
172	検査オーダー画面で、有無を選択させる
173	電子カルテで禁忌情報に入力するとオーダーできない仕組み
174	電子カルテ 紙面問診票

回答 ID	具体的な内容
176	同意書および問診書にチェック項目がある。電子カルテの患者プロフィールに造影剤アレルギーの項目がある。
178	患者カルテの造影剤禁忌情報へ薬品名を登録しておくことで指示入力時にアラート表示される。薬品名が不明な時は「造影剤」を登録する。
179	カルテの禁忌情報をチェックしている。
180	造影剤同意書の発行にて、内容にアレルギーや副作用履歴を確認する項目がある。
181	入力画面に、造影剤アレルギーの有無というチェック項目がある。さらに有の場合、副作用対応という項目があり、主治医立ち合い、放射線科連絡するを必ず入力することになっている。
182	電子カルテの患者情報に仕組みがあり、部門システムに伝達される。
183	電子カルテオーダー時と RIS 画面撮影時に表示される
184	造影検査オーダー時に過去にアレルギー等があり、電カルに登録されていれば警告が出る仕組み。
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票・検査前の状況確認
187	電子カルテ表示
188	問診表・同意書内の問診でチェック。
189	電子カルテ上で副作用情報のチェックをする
191	電子カルテの造影剤アレルギー欄に登録している
192	電子カルテ上に表示される
193	造影検査問診票
194	電子カルテ患者基本情報のアレルギー登録を反映
195	過去に副作用歴があれば電子カルテの患者通知情報に記載、及びR I Sの「患者コメント」「副作用歴」に記載。
197	カルテの所定の場所に、アレルギーや禁忌情報が表示される
198	問診票で、事前に確認
200	電子カルテに記載されているアレルギー・副作用情報が RIS に示されており、事前にその情報を技師が確認している。
201	まず、問診票に患者が記入し、その内容を主治医や看護師が確認する。
202	電子カルテアレルギー情報に記載 造影剤情報管理システム（インフォコム）
203	問診票にて確認
204	同意書によるチェック
205	問診票項目にてチェックを行っている。
207	電子カルテより部門システムでデータを受け取り確認できる。また問診票に記入する項目がある。
208	患者アレルギー歴とオーダーの相互チェックが自動でかかる

回答 ID	具体的な内容
209	PIS および電子カルテを参照し、タイムアウトを行っている。
210	放射線のシステム内でチェック 問診票の記載
211	検査依頼医による問診票の電子カルテ上での閲覧が可能である。
212	説明書、同意書にチェック欄を設け記入してもらう。
213	造影 CT・MRI 依頼時にオーダー上でチェックを入れている。検査の同意書にも記載されている。
214	電子カルテで造影剤をオーダーする際にチェックを入れる
215	検査依頼医による問診票の電子カルテ上での閲覧が可能である。
216	規定の問診票があり、患者への問診を実施。過去にアレルギー反応があった場合、電子カルテにコメントを残している。
217	カルテでチェック
219	放射線情報システムへ、コメントを残し次回の検査時には、ポップアップ画面で表示される。
220	問診票での確認
221	アレルギー副作用歴がある患者は、ヨード禁忌にチェックを入れると、ヨード造影検査はオーダーできなくなる
223	アレルギー、禁忌情報が電子カルテ上で容易に確認できる仕組みになっている
224	造影剤問診票の記入、電子カルテアレルギー情報参照する。オーダー時にアレルギーチェックがある。
225	電子カルテ内にアレルギー情報を入力している。同意書内のアレルギーの質問を放射線技師も確認している。同意書は最終的に医師が確認し、確認サインをすることになっている。
226	RIS 及び電子カルテに記載している。
227	同意書及び問診票を利用している
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	検査オーダー時に印刷される問診票でチェックする
230	造影検査時に電子カルテで確認
231	過去の副作用履歴情報が RIS 上毎回表示される。
232	CT 問診票・同意書にて
233	・上記同様、「問診票・同意書」に記載してもらい、撮影前に放射線技師が有無を必ずチェックしている ・カルテ上でアレルギー確認ができる
234	患者情報への入力、問診表によるチェック
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	造影剤アレルギーを登録し、電子カルテのアイコン表示もしている。

回答 ID	具体的な内容
238	検査オーダー指示画面及びカルテ上で副作用情報が表示される（検査前日に確認）
239	電子カルテ R15 で表示
240	オーダー時の問診内容が画面上で確認できる カルテ画面上でアレルギー情報が確認できる
241	処理工程表にアレルギーの有無を確認する項目を設けている 確認は2人で行うようにしている 同意書を渡す際に患者本人にも確認
242	造影剤アレルギー・副作用情報を収集した薬剤師が電子カルテの患者基本情報（プロフィール情報）に予め登録することで、電子カルテ上にアレルギー情報のアイコン表示・オーダ発行を抑制・放射線部門システムに表示される仕組み
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。部門システムでもチェック可能。
245	電子カルテ、RISなどで確認

④-10「メトホルミン製剤をチェックできる仕組みがある場合」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=158)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に腎機能確認が組み込まれている
3	外来看護師や放射線技師の事前チェック
5	チェックリスト作成
6	電子カルテ 事前検査説明書にて再確認
7	薬剤師による造影前の服用チェック体制がある 放射線技師によるシステム内でのチェックも施用前に行う流れを構築済み
10	薬剤の使用履歴の提示
11	事前に問診で確認している
13	同意書
14	問診表と薬剤写真画像にて患者に確認実施
15	RISによる記録の参照
18	問診票にてチェック
19	造影 CT オーダをした時に 「糖尿病薬前後 48 時間休薬」 の表示が出るようになっている
20	ヒグアナイド系を使用している患者はチェック表を持ってくる。
21	書面を用いた、チェックリストあり
24	問診表に記載欄があり、全例確認している。

25	検査オーダー時に外来看護師がチェックリストで聞き取り確認する。検査前に再度確認する。
26	造影 CT 検査予約時にオーダ医・看護師がメトホルミン製剤服用の有無をチェックし、検査予約票に記入する 事前の患者情報確認で再度チェックする 毎回の問診で患者に確認する
27	問診で拾い上げ
28	電子カルテ。 造影剤問診票。
29	造影剤同意書に糖尿病薬についての問いがあり、使用している場合はお薬を聞く
30	造影ラインをとる時や注入する時に医師が必ず確認している。
31	問診票で糖尿病の既往および内服治療内容を確認する
32	問診時に医師が確認し、カルテに記載するようにしている
33	オーダー時に医師がチェックする→放射線技師が確認
34	検査の内容を説明して、同意書をとる際に問診する
35	電子カルテによる検査依頼時にチェック可能
36	問診時と電子カルテで上で確認
38	指示した医師以外に受けた看護師が服薬情報をチェックしている
39	同意書内に該当すれば、休薬の説明・指示の欄がある。
41	同意書・問診時にお薬手帳等で確認（写真を見せて患者さんに確認している）
42	患者の問診票からの情報収集と、指示が出された外来・病棟看護師の電子カルテからの記載を確認する。
44	問診にチェック項目がある
46	診療録に記載あるため、医師が指示を出す際に参照する。
51	電子カルテで投与薬剤が容易に確認できる。
52	担当者がカルテを確認する
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	服用チェック項目あり、eGFR 数値も 必ず検査前に確認（検査説明・同意書内に）
57	同意書・問診票にてチェック
59	予約時に休薬指示、問診表で確認
61	医師と放射線技師による問診票のチェック
64	電子カルテ 同意書
67	造影剤問診票同意書によるチェック（事前にメトホルミン製剤の写真での患者さんへの聞き取り）。
68	問診表および検査当日の問診
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。

72	オーダー時に確認済みチェックを入れないとオーダーが完了しない
75	問診票参照
76	問診票にて必ずチェックしている
77	造影剤の同意書に服用の有無の項目がある
78	電子カルテにて、服用薬剤の種類を確認できるようなシステムになっている。
79	検査オーダー時にチェックリストを入れてもらう
81	同意書内
82	処方オーダーより
83	オーダー時にメトホルミン塩酸塩内服をチェックする項目がある
85	CT の同意書、問診の確認。電子カルテ。病棟薬剤師のチェック
86	ヨード造影剤検査問診票による確認
87	同意書に記載されている
89	問診票に表示項目があり撮影前に聞き取りをしている
90	電子カルテより確認、患者本人への問診により情報収集している。
91	紙面に項目を設けている
92	検査をオーダーする時に、医師や看護師が患者から聞き取りを行っている。また、検査直前に放射線技師も聞き取りを行っている
94	問診票
96	電子カルテで入力できる項目があり、入力されているとオーダー時に警告が出る
97	造影検査オーダー時の問診表に、メトホルミン製剤のチェック項目
99	問診票。入院患者は入院時に薬剤師が確認。
100	オーダー時にメトホルミン製剤内服の有無を入力。検査依頼票に明示される。
101	検査オーダー時の問診票で糖尿病の飲み薬を飲んでいるか確認する項目がある
107	オーダー時に入力項目がある、入力しないとオーダーできない
108	造影剤使用に関する同意書が前日に届き、チェック項目がある。
109	検査前に問診をおこない、確認している。
110	造影検査同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	電子カルテオーダー画面にチェック欄がある
112	造影剤同意書の確認
113	造影剤同意書によるビグアナイド系の確認を行なっている。
114	造影剤問診票でチェックできる
115	造影剤同意書確認
116	画像オーダー時のチェック項目
117	指示書にチェック項目を設けている。
118	持参薬鑑別システムにより確認ができる
120	HIS, RIS のコメント、問診
122	入院患者は薬剤師によるチェックを行い、主治医へ報告している。

123	処方ありの場合、アラート設定あり
124	問診票
125	電子カルテ上のチェックリストで確認
128	同意書でメトホルミン製剤の内服を確認している。eGFR で腎機能評価をしている。ESUR のガイドラインを使用している。
129	カルテ上や患者申告で糖尿病がある場合はその都度患者本人に確認している。オーダー上でメトホルミン製剤を内服しているか確認している。
130	電子カルテより確認
133	電子カルテと RIS が連動しているため容易にチェックできる
134	オーダー時にチェックリストが表示される
136	同意書
141	同意書に記入
142	同意書に糖尿病薬名などの記入があり薬剤一覧と照らし合わせてチェック
143	Q25 と同じ
144	検査オーダー画面で確認できる
145	造影問診票で糖尿病薬服用の有無を確認し、有の場合は内容を確認して休薬を指示する。お薬手帳がなかったり、本人が理解できていないこともあるので、医師・看護師・放射線技師と、検査直前まで複数回確認するようにしている。
147	④-8 と同じ
149	オーダー時の問診で本人に確認している。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	問診票、電子カルテ薬剤服用歴
152	全例に適応
154	患者自身への問診と、前日に看護師がカルテを参照している。
155	同意書に項目があり、チェックするシステムになっている
156	造影 CT 検査・説明同意書と検査予定表に主治医がチェックするようにしている
159	医師によるチェック項目がある
160	内服状況確認し、造影検査前後 2 日休薬している
161	検査前に看護師がチェックリストを使用し本人に確認
163	看護師が医師の指示のもとに確認する手順となっている。入院患者に関しては、外来担当薬剤師が入院前外来で、入院後は病棟薬剤師が確認する手順である。
166	CT 予約用紙に専用の記載欄を設け、休薬した日、検査当日、休薬解除日を記載する。
167	予約時に外来にてお薬手帳や当院処方歴確認。さらに当日検査担当者も確認している。
169	事前に同意書のメトホルミン製剤チェック項目を確認。検査直前に問診票にて確認している。
171	問診票に記載欄があり、検査前にチェックしている。

172	検査オーダー画面で、糖尿病薬の内服の有無」を選択させる
174	電子カルテ 紙面問診票
176	同意書および問診書にチェック項目がある。
179	一覧表で服用薬の有無を確認している。
180	造影剤同意書の発行にて、メトホルミン製剤の使用をチェックする項目がある。
181	入力画面に、服用の有無というチェック項目がある。「服用中の方は、造影後 48 時間の一時服用中止をお願いします」とコメントが表示されている。
182	入院患者は薬剤管理指導業務の一環、外来患者は持参薬システムでチェック。
183	同意書によりチェック
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票確認・お薬手帳の確認
187	CT 依頼字にチェック
188	問診表・同意書内の問診でチェック。
189	問診票による聞き取り
190	検査オーダー時にチェックをしないとオーダーができないシステムにしている
191	病棟薬剤師が持参薬確認で把握し情報共有している（入院）
197	当院処方薬以外の内服について入院時に薬剤師が聞き取りを行い、カルテに入力。
198	問診票で事前に確認し、予約が入った時点で検査当日の前後 48 時間服用を中止してもらう
201	まず、問診票に患者が記入し、その内容を主治医や看護師が確認する。検査当日、検査技師もチェックする。
202	造影剤問診票にメトホルミン製剤の副作用有無の項目あり
203	問診票にて確認
205	問診票項目にてチェックを行っている。
207	問診票に記入する項目があり、それにより確認できる
209	電子カルテ(問診表)で確認する。各装置にメトホルミンの一覧表が設置されている。
211	④-9 に同じ。
213	ガイドラインに基づいて、医師がチェックしている。検査同意書にも記載されている。
214	電子カルテで造影剤をオーダーする際にチェックを入れる
215	④-9 に同じ。
216	規定の問診票があり、患者への問診を実施。
217	カルテでチェック
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
220	問診票での確認
223	指示だしの時点で確認ができるようになっている（医師・看護職）
224	造影剤問診票の記入

225	同意書内に質問を項目を設け確認している。同意書は最終的に医師が確認し、確認サインをすることになっている。
226	検査直前の問診で糖尿病薬の確認を必ず確認している。
227	問診票に服用の有無の記載がある
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	検査オーダー時に印刷される問診票でチェックする
230	検査予約票に記載 口頭にて確認
231	電子カルテで服用歴が確認できる。
232	CT 問診票・同意書にて
233	「問診票・同意書」のチェック項目にしている
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	造影剤使用に関する説明書に記載。検査前後 4 8 時間は服薬中止。
241	薬剤師チェック
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）前日に看護師・医師が腎機能の確認を施行
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。部門システムでもチェック可能。同意書でも BG 内服について確認。
245	口頭確認

④-11「 β 遮断剤服用有無をチェックできる仕組みがある場合」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=61)

回答 ID	具体的な内容
6	電子カルテにて表示
21	書面を用いた、チェックリストあり
25	検査オーダー時に外来看護師がチェックリストで聞き取り確認する。検査前に再度確認する。
26	事前の患者情報確認で再度チェックする 毎回の問診で患者に確認する
28	電子カルテ。 造影剤問診票。
35	電子カルテによる検査依頼時にチェック可能
36	問診時と電子カルテで上で確認
42	電子カルテから患者の内服状況を確認し、電子カルテに記載している。
44	問診にチェック項目がある
52	担当者がカルテを確認する
57	同意書・問診票にてチェック

59	問診表で確認
61	医師と放射線技師による問診票のチェック
64	電子カルテ 同意書
67	冠動脈 CT で使用する場合の医師によるオーダー時にコメント入力をしてもらっている。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
73	医師による問診
78	電子カルテにて、服用薬剤の種類を確認できるようなシステムになっている。
81	同意書内
93	検査前の同意書、問診書にチェック項目がある。
107	オーダー時に入力項目がある、入力しないとオーダーできない
109	検査同意書にβ遮断薬使用有無のチェック欄がある。
111	電子カルテオーダー画面にチェック欄がある
112	造影剤同意書の確認
115	造影剤同意書確認
117	心臓 CT オーダー時に医師がチェックする体制としている。
118	持参薬鑑別システムにより確認ができる
133	電子カルテと RIS が連動しているため容易にチェックできる
134	オーダー時にチェックリストが表示される
141	同意書に記入
143	Q25 と同じ
144	検査オーダー画面で確認できる
145	画像オーダー時に服用の指示を出され、RIS で確認できるようになっている。それに加えて、指示書があるので、複数回の確認を行なっている。
149	オーダー時の問診で本人に確認している。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
152	全例に適応
156	使用許可書に主治医がチェックしている
163	看護師が医師の指示のもとに確認する手順となっている。
172	検査オーダー画面で、喘息の有無を選択させる
176	同意書および問診書にチェック項目がある。
179	医師が診察時に確認する。
181	入力画面に、服用の有無というチェック項目がある。
185	オーダー画面に表示するように設定
188	問診表内でチェックする。

190	心臓 CT 検査を選択したときだけ有無のチェック項目がポップアップするシステムになっている
191	病棟薬剤師が持参薬確認で把握し情報共有している（入院）
192	ある、なしの項目あり
197	④-10 と同様
198	問診票で事前に確認
209	電子カルテで確認する。
214	電子カルテで造影剤をオーダーする際にチェックを入れる
216	規定の問診票があり、患者への問診を実施。 電子カルテにて院内処方薬の確認。
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	検査オーダー時に印刷される問診票でチェックする
231	電子カルテで服用歴が確認できる。
232	CT 問診票・同意書にて
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
241	薬剤師チェック
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）
245	電子カルテで確認

④-12「禁忌病名（甲状腺疾患など）をチェックできる仕組みがある場合」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=130)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に腎機能確認が組み込まれている
3	電子カルテ禁忌欄を設けている
5	チェックリスト作成
6	電子カルテにて表示
10	電子カルテに項目設定
13	同意書
15	RIS および電子カルテの参照
18	問診票及び説明書にてチェック
20	造影剤使用同意書に記載がある。
24	問診表での確認を行っている。
26	事前の患者情報確認で再度チェックする 毎回の問診で患者に確認する

回答 ID	具体的な内容
27	問診頼り
28	電子カルテ。 造影剤問診票。
29	造影剤同意書に禁忌病名の項目がある。
30	電子カルテで予約時にアラートが出る。検査の時にも医師がチェックする。
31	問診票で甲状腺疾患の既往を確認する
32	病院システムに禁忌事項をチェックする項目があり、チェックがあると検査のたびに表示されるようになっている。
34	同意書の取得時に問診する
35	電子カルテによる検査依頼時にチェック可能
36	問診時と電子カルテで上で確認
37	日中業務中は看護師が事前に電子カルテより情報収集、また直前に問診している
39	電子カルテ内の薬剤禁忌システム。
41	問診を電子カルテで確認
42	患者の問診票からの情報収集と、指示が出された外来・病棟看護師の電子カルテからの記載を確認する。
52	担当者がカルテを確認する
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	禁忌項目（喘息など）について最低限 チェック項目あり
57	同意書・問診票にてチェック
58	造影剤使用時は説明・同意書をもらっているので、そこで確認している。
59	問診表で確認
61	医師と放射線技師による問診票のチェック
62	電子カルテに禁忌病名が登録されていれば、オーダー時に確認画面がポップアップで表示、オーダー医師に注意喚起をしている
64	電子カルテ 同意書
67	造影剤問診票同意書によるチェック。
68	問診表を利用
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
73	医師による問診
75	問診票参照
77	同意書の問診に記入欄がある
78	電子カルテにて、疾患名を確認できるようなシステムになっている。
79	検査オーダー時にチェックリストを入れてもらう

回答 ID	具体的な内容
81	同意書内
83	オーダー時に喘息をチェックする項目がある
85	CT の同意書、問診の確認。電子カルテ。病棟薬剤師のチェック
86	ヨード造影剤検査問診票による確認
90	電子カルテの患者プロファイルにより事前に拾い上げ情報共有している。
91	紙面に項目を設けている
92	チェックフローを作成しているが、オーダーする際は医師に任せている
93	検査前の同意書、問診書にチェック項目がある。
99	問診票
100	オーダー時に甲状腺疾患の有無を入力し。検査依頼票に明示される。
101	問診票に項目を設けている
107	オーダー時に入力項目がある、入力しないとオーダーできない
108	造影剤使用に関する同意書にチェック項目があり、参照できる。
109	検査準備票に甲状腺に関する情報があれば医師に確認している。
110	造影検査同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	電子カルテオーダー画面にチェック欄がある
112	造影剤同意書の確認
115	造影剤同意書確認
117	オーダー時に医師がチェックする体制としている。
118	持参薬鑑別システムにより確認ができる
120	HIS, RIS のコメント、問診
123	禁忌アラート設定あり
125	電子カルテ上のチェックリストで確認
127	オーダーリングの中にチェック項目があり、チェックをしないとオーダーできない
128	同意書とチェック項目あり。
129	問診票に甲状腺機能亢進症についてチェック項目がある
130	放射線情報システムまたは電子カルテより確認
133	問診票でチェックする
134	オーダー時にチェックリストが表示される
139	電子カルテに禁忌病名、禁忌検査を入力する場所がある。
141	同意書に記入
143	Q25 と同じ
144	検査オーダー画面で確認できる
145	禁忌疾患罹患の有無を問診票で確認している
147	④-8 と同じ
149	オーダー時の問診で本人に確認している。

回答 ID	具体的な内容
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	電子カルテ特記事項欄
152	全例に適応
154	患者自身への問診のみ
155	同意書、治療チェックカードに記入する 放射線オーダーリングシステムと電子カルテがリンクしている
156	検査予定表と使用許可書に主治医がチェックしている
158	電子カルテ内にて記録されている
159	医師によるチェック項目が表示される
160	問診表に記入していただく
161	検査前に看護師がチェックリストを使用し本人に確認
163	同意書に禁忌項目をチェックする仕組みがあり、看護師や技師が確認する手順となっている。
169	事前に同意書の確認。検査直前に問診票にて確認している。
170	放射線室において電子カルテ上での禁忌事項項目、既往歴の確認を実施
172	検査オーダー画面で、甲状腺疾患の有無を選択させる
174	電子カルテ 紙面問診票
178	禁忌病名がある場合は指示入力時にアラートが表示される。
179	検査の指示だし時にチェックしている。
180	造影剤同意書の発行にて、既往歴を記入する欄がある。また電子カルテ内にも禁忌事項を確認する欄がある。
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票の確認
187	電子カルテに表示
188	問診表でチェック。
191	造影検査の同意書に甲状腺疾患、喘息有無等を確認する欄がある
192	禁忌項目に色わけ表示
197	入院時に既往歴を聞き取り、看護師が電子カルテに入力。
198	問診票で確認
201	まず、問診票に患者が記入し、その内容を主治医や看護師が確認する。
203	問診票にて確認
205	問診票項目にてチェックを行っている。
207	電子カルテより部門システムでデータを受け取り確認できる
209	電子カルテ内の問診表、プロフィールで確認できる。
211	④-9に同じ。
212	説明書、同意書にチェック欄を設け記入してもらう。

回答 ID	具体的な内容
213	造影 CT・MRI 依頼時にオーダー上でチェックを入れている。検査の同意書にも記載されている。
214	電子カルテで造影剤をオーダーする際にチェックを入れる
215	④-9 に同じ。
217	未記載
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
220	問診票での確認
224	造影剤問診票の記入
225	同意書内に質問を項目を設け確認している。同意書は最終的に医師が確認し、確認サインをすることになっている。
226	検査前の問診で確認している。
227	問診票に禁忌病名の記載がある
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	検査オーダー時に印刷される問診票でチェックする
231	電子カルテに禁忌事項のアラートアイコンがあり、RIS にも反映される。
232	CT 問診票・同意書にて
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	造影剤使用に関する問診票・同意書でチェックしている。
238	依頼医が検査オーダー時に入力すればオーダー指示画面上で確認できる
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映
245	電子カルテで確認

⑤造影剤の準備や投与についてお伺いします。

⑤-1 造影剤の準備や投与は誰が行いますか？（複数回答可）

(n=241)

医師	98	40.7%
看護師	185	76.8%
薬剤師	4	1.7%
診療放射線技師	208	86.3%
補助者（診療、看護アシスタントなど）	3	1.2%
その他	3	1.2%

(n=3)

回答 ID	その他内容
145	薬剤セットまでは、看護師が実施するが、インジケータ注入ボタンは放射線技師が行なう。
211	歯科医師
215	歯科医師

⑤-2 造影剤の準備時・投与時の安全対策や工夫はありますか？

(n=241)

ない（→設問⑥-1 へ）	9	3.7%
ある	232	96.3%

⑤-3（ある場合）どのような安全対策や工夫をしていますか？（複数回答可）

(n=232)

患者誤認を防止できる仕組みがある	191	82.3%
薬剤バーコードを活用した承認システムがある	15	6.5%
腎機能を事前にチェックできる仕組みがある	184	79.3%
造影剤アレルギー・副作用情報を事前にチェックできる仕組みがある	211	90.9%
メトホルミン製剤をチェックできる仕組みがある	167	72.0%
β遮断剤服用有無をチェックできる仕組みがある	65	28.0%
禁忌病名（甲状腺疾患など）をチェックできる仕組みがある	77	33.2%
特定の背景を有する患者等注意が必要な患者（旧：慎重投与に該当する患者）へは医師が立ち会っている	120	51.7%
造影剤漏出対策を講じている	143	61.6%
その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）	18	7.8%

(n=18)

回答 ID	その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）
14	夜間のみ医師立ち会っている
42	造影剤漏れセンサーを使用
57	注意の必要な患者は、事前に医師に連絡し、必要に応じて対応してもらう
67	放射線技師と看護師によるダブルチェック。
88	体重からの投与量の自動計算

回答 ID	その他（上記以外に行っている安全対策や工夫の内容）
100	日勤帯は、CT・MR 室の隣室に放射線医師が常在している。時間外は、医師の同席のもと検査を実施。
105	本人への聴き取り
118	薬剤オーダー時にアラートが出る
124	常に看護師、診療放射線技師の複数対応
126	造影剤を準備した看護師と診療放射線技師がダブルチェックを行う
134	すべて医師が立ち会う
136	必ず医師が立ち会う
146	ヨード系造影剤使用時の同意書
163	時間差 W チェックの徹底（技師一技師、技師一看護師）
165	検査時に必ず医師と看護師が立ちあう。
176	看護師と放射線技師で造影剤のダブルチェックを行っている。
241	造影 C T 検査時は医師立会い
245	タイムアウト施行

⑤-4「患者誤認を防止できる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。

外来では、どのような仕組みがありますか？（複数回答可）

（n=191）

患者識別バンド装着	43	22.5%
患者バーコードの承認システム	59	30.9%
患者本人が名前を名乗る	185	96.9%
診察券や予約票等で確認	150	78.5%
その他	18	9.4%
仕組みはない	0	0.0

（n=18）

回答 ID	その他内容
24	二次システム認証システム
30	生年月日も確認する。
57	患者本人と意思疎通ができない場合は付き添いに確認
71	Ris（放射線科管理システム）での確認
80	担当看護師による確認
92	検査受付時に「受付票」を出力し患者 ID、生年月日、オーダー内容が確認できる、バーコードも印刷されている
128	RIS HIS 造影剤同意書
133	本人に生年月日も言ってもらう

回答 ID	その他内容
139	患者本人に生年月日も言ってもらう。
145	患者本人が名前と生年月日を言う
159	患者に生年月日を言ってもらう。患者にも一緒に確認してもらう。
169	放射線技師と看護師、もしくは放射線技師と医師でダブルチェック。
172	同意書の確認
181	同意書で確認している
188	生年月日を言ってもらう。
194	診察券に患者の顔写真とバーコードが入っている
222	氏名、生年月日を言って頂く。
241	検査開始前に患者の名前を呼んで確認

⑤-5「患者誤認を防止できる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。

入院では、どのような仕組みがありますか？（複数回答可）

(n=191)

患者識別バンド装着	172	90.1%
患者バーコードの承認システム	82	42.9%
患者本人が名前を名乗る	177	92.7%
診察券や予約票等で確認	85	44.5
その他	12	6.3
仕組みはない	0	0.0

(n=18)

回答 ID	その他内容
30	生年月日で確認する。
71	Ris（放射線科管理システム）での確認
80	担当看護師による確認
92	「受付票」を印刷出力し、検査内容、患者識別を行っている
145	患者本人が名前と生年月日を言う
159	患者に生年月日を言ってもらう。患者にも一緒に確認してもらう。
172	同意書の確認
175	検査案内表のバーコードで認証
181	同意書で確認している。
188	生年月日を言ってもらう。
194	診察券に患者の顔写真とバーコードが入っている
222	氏名、生年月日を言って頂く。

⑤-6「薬剤バーコードを活用した承認システムがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=15)

回答 ID	具体的な内容
15	部門専用票によるバーコードの使用
24	一部の造影剤でバーコードの認証が可能
41	インジェクターと薬剤のバーコード連携・インジェクターに使用薬剤の表示
58	バーコード付きのリストバンドを装着している。
70	造影剤自動注入器が造影剤シリンジの RF タグまたはシリンジプランジャーを自動認識するシステムになっている。
105	ダブルチェック
115	認証してから準備
123	電子カルテシステムと連動しています
125	先発品造影剤に薬品バーコードがついているものはインジェクター装置で造影剤を確認できる
132	以前のコスト入力方法は「RIS 一覧から目視で選択」していたためミスが多かったが、現在では「会計コードをバーコード化し、使用したものをファイルに入れファイル表面にバーコードを添付しこれを読み込ませる」。現在ほとんどミスはなくなっている。また、技師と看護師でダブルチェックを行っている。
170	インジェクターで薬剤バーコードを読みとり薬剤が表示される
178	薬剤バーコードと患者識別バンドのバーコード、実施看護師のバーコードの 3 点認証
205	自動注入器に薬剤バーコード認識機能がある。
226	造影剤注入器に表示されている薬剤と異なる薬剤をインジェクターにセットすればアラームになる。
245	費用請求に使用

⑤-7「腎機能を事前にチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=184)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に腎機能確認が組み込まれている
2	電子カルテと R I S が連携されている
4	電子カルテ上の検査データを検査前に看護師・放射線技師が確認している。
6	依頼表に表示されている。
9	放射線システムに表示される
10	検査履歴の確認

回答 ID	具体的な内容
12	電子カルテ、RIS に eGFR が標記され確認できる
13	eGFR 確認
14	基本問診票にてチェックを実施し、担当職場で採血結果より腎機能を判断する。
15	事前チェック、直前チェック
17	カルテのトップ画面にデータが表示されるようになっている
18	検査前に診療放射線技師が電子カルテを確認し RIS に eGFR の数値を記入している。
20	RIS:放射線システムに BUN, Cre をチェックできる。 HIS:電子カルテをチェックできる。
22	検査日の 3 か月以内の採血データがないときは、採血して結果が出てからの検査になっている。
24	電子カルテと放射線科の二次システムの連携による採決データの確認とアラート
25	検査当日、1 時間前に採血、結果を看護師が確認する
26	造影剤選択およびインジェクターへのセット時に、放射線部門システム上に腎障害が 3 段階色分け表示される
27	3 ヶ月以内の採血
28	電子カルテ。 部門システムの患者情報。
29	電子カルテにてクレアチニン値を技師がチェックすることが決められている。チェック後にカルテに記載
30	RIS 上に電子カルテからの血液データ情報が表示される。(eGFR)
31	問診票による確認、電子カルテ情報を RIS 端末に反映する
32	問診票及び検査結果のカルテ記載を確認できるようになっている。
33	④-8 と同じ
34	放射線科部門システムで直近の eGFR をチェックする
35	電子カルテにより事前にチェック可能
36	問診表に、チェック欄がある
37	RIS、電子カルテ上で eGFR が表示される
39	問診表に腎機能検査の値を記載する。
41	④-8 と同
42	電子カルテで、事前に検査歴から調べている
44	画像検査用の受付票に腎機能の数値を記載している
51	電子カルテではなく PACS にて確認可能。
52	担当者が電子カルテや同意書で確認
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	「検査説明・同意書」内に eGFR 数値記載項目あり
56	通常であれば、検査結果 3 ヶ月前までの参照

回答 ID	具体的な内容
57	同意書と問診票を担当技師と担当看護師でダブルチェック
58	Cr は必ず確認することをマニュアル化している。
59	問診表で確認
61	問診票によるチェック
62	電子カルテで採血結果から腎機能（eGFR）を確認している
64	電子カルテ 同意書
65	事前採血のクレアチニン値でチェックしている
67	造影剤問診票同意書によるチェックと電子カルテによるチェック。
68	R I S で閲覧が可能
69	電子カルテに直近の e GFR 数値の表示がされている
70	CT 検査依頼伝票に腎機能データが反映される。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
72	オーダー時に医師がチェックを行えば検査依頼にチェック済みの文言が表示される。また、放射線技師は手順書により検査結果一覧をチェックすることとなっている
73	問診票
75	電子カルテ参照
76	CT 用放射線オーダーには常に表示されている。
77	電子カルテでオーダー時に血液データがあれば自動的に記入される
78	電子カルテにて、eGFR の値を確認できるようなシステムになっている。
79	RIS に eGFR が表示され確認をしている。 検査していない場合は迅速 Cre 測定を行っている
80	事前に血液検査でチェックすることを必須としている
81	同意書確認
83	オーダー時に eGFR とクレアチニンを確認する項目がある
85	電子カルテ、RIS
86	担当看護師による確認 ヨード造影剤検査問診票による確認
87	同意書に記載されている
89	オーダー画面で eGFR を確認している
90	電子カルテより eGFR 値（3 ヶ月以内）で 30 以上であることを確認している。
91	紙面で確認
92	自作のエクセルファイルで e - G F R を算出して造影剤投与量を決めたり、腎機能が悪いときは、そのデータで医師と相談して中止する時もある
93	検査前の同意書、問診書にチェック項目がある。
94	検査結果を RIS に反映

回答 ID	具体的な内容
95	電子カルテ及び同意書にてチェック
96	造影検査前の血液検査結果を医師が確認し、造影検査オーダー時にチェックする
97	電子カルテのチェック
98	電子カルテにて確認
99	問診票確認および検査直前のデータ確認作業
100	電子カルテの腎機能の値が、放射線システムに添付される。
101	放射線部門システムにおいて検査一覧画面で最新の腎機能の値を表示している
102	RIS で、Cr 値、eGFR 値が表示され、基準値外の時は、メッセージが表示される。問診票でチェックできる。
104	部門システム上。
105	主治医の指示で採血を行い医師が判断する
107	検査結果を参照できる
108	検査の依頼紙に数値の記載があり、参照できる。
111	電子カルテオーダー時チェック 問診表に検査日と eGFR を記載
112	以前の造影剤同意書と採血結果の確認
113	当日の造影検査一覧から、CT 担当の放射線技師が eGFR 値の確認を行なっている。
114	検査前 3 ヶ月以内に腎機能を測定する
115	造影剤同意書 血液検査結果確認
117	HIS と RIS が連携している。
119	造影剤使用同意書に記載するチェック項目がある。
120	HIS, RIS の Cre, GFR 値、問診の確認
125	電子カルテ上のチェックリスト入力で確認
127	検査前に同意書を提出してもらっている
128	電子カルテ RIS にて前日予習をする。当日については同意書に eGFR 値が入力される。
129	依頼票に直近データーBUN、Cre が印字される
131	採血結果でチェックしている
132	検査前日の準備：受付事務がカルテをチェック（3 カ月以内）一覧を作成→技師へ申し送り。→技師は検査準備表を印刷し、腎機能の値をチェック。 検査当日：技師と看護師でダブルチェックし、問診票に記載されているダブルチェック欄へサインする。
133	RIS にて検査開始時にアラートが表示される
134	eGFR を必ず確認することになっている
136	同意書
137	電子カルテと部門システム（Ris）の情報連携で、Ris 側で腎機能値を認識できる。
138	電子カルテで確認可能 検査依頼書に Cr・eGER 値が自動印字される

回答 ID	具体的な内容
139	④-8 にて回答したように、検査室に伝わる。
140	薬剤師が電子カルテの付箋機能を使用して表示している
141	電子カルテに腎機能が表示される
142	造影検査同意書にチェックするところがある
144	検査オーダー画面で確認できる
145	RIS および問診票を検査前に確認する
147	造影剤指示書に記入欄があるので記入しておき検査前にチェックする
149	問診表に腎機能を入力する欄があり、それが記入されていないと検査をしない。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	血液データ確認してから造影剤施行（eGFR）、問診票に基剤欄あり
152	電子カルテ
153	問診表に腎機能を記入する欄を作成し、看護師または放射線技師がカルテから記入し2名で確認・サインをしてから投与している
154	Q24 同様。
155	クレアチニンの値チェックし同意書に記入する
156	検査予約票、HIS、RIS にて採血結果確認
157	問診票にて『クレアチニン』『BUN』の項目を必須としている。
158	クレアチニンキットで作成
159	診断 RIS 画面に表示される
160	採血結果データチェックを腎機能評価として文書管理に入力する
161	検査指示書に腎機能を記載し、看護師も確認できるようにしている
162	同意書の確認
163	指示出し時と同じ。
164	造影 CT および造影 MRI オーダー時に、eGFR を段階的に分けた内より選択することとしている
166	4-⑧に同じ
167	同意書と同時にアレルギー問診票を取り、そこで腎機能（直近3ヶ月以内）を確認・記入している。
168	造影問診票に記入と放射線システムに直近のクレアチニンと GFR 値が表示される
169	放射線部門システムに腎機能が反映される。
170	3ヶ月以内の腎機能のチェックを放射線技師・看護師（問診用シートに記載）ともそれぞれ確認している。
171	問診票に記載欄があり、検査前にチェックしている。
172	放射線科連携システムに表示される
174	電子カルテ
175	電子カルテの検査データを確認する。

回答 ID	具体的な内容
176	同意書および問診書にチェック項目がある。電子カルテでチェックできる。
180	造影剤同意書の発行にて、3 か月以内の腎機能を記入する欄がある。
181	オーダー時に、クレアチニン値、腎機能障害の有無がチェックされており、部門システムに反映される。
182	部門システムから電子カルテに問い合わせを行い、eGFR 等を表示させている。主に前日夕方に Ns や Dr がチェックを行っている。
183	3 か月以内の腎機能
185	オーダー画面に表示するように設定
186	検査データが紐づけされ依頼票に印字される
187	電子カルテ確認
188	看護師が投与直前に問診表を確認している。
189	電子カルテ上で採血結果を確認する
190	検査票と RIS からクレアチニン値と eGFR 値の数値を確認する
191	腎機能を事前の採血で確認し、RIS コメントに記録している。放射線診断科では直近 3 か月以内の採血結果が必要と取り決めている。
192	電子カルテ上で表示
193	造影検査問診票・電子カルテ内血液データ
194	直近の S-Cre と eGFR を表示させている
195	造影検査では腎機能チェックがルールとなっている
196	RIS 上で技師、看護師で事前に確認
198	問診票で確認
199	RIS オーダに GFR 表示がされている
200	eGFR が自動的に載るシステム
201	問診票を確認し、電子カルテの腎機能検査の結果を確認する。
203	問診票にて確認
204	同意書の確認
205	採血データで eGFR をチェック
206	電子カルテで腎機能の検査結果を確認する
207	腎機能（e-GFR）により医師が造影剤量（ヨード量）を決定する（減量等）
209	PSI および電子カルテで確認する。
210	問診票を記載する
211	e G F R の算出および数値の確認。
212	電子カルテのラボデータを必ず確認し、伝票記載している。
213	医師がオーダー時にチェックした項目を部門システムにて確認。
214	技師支援システムでの確認と患者からの聞き取り
215	e G F R の算出および数値の確認

回答 ID	具体的な内容
216	eGFR 値が採血時に算出される。
217	前日にカルテでチェック、当日もチェック
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
222	電子カルテで一覧で確認する。
224	直近 3 ヶ月以内のクレアチニン値が部門システムに反映される
225	同意書がカルテ内にスキャンしてあり、その中に医師が eGFR 値を記入しているため確認している。
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	記載済みの問診票にてダブルチェック
232	eGFR Cr 数値
233	造影剤の使用前に「問診票・同意書」でチェック欄と腎機能データを入力する項目があり、データの入力がないとカルテ保存ができず確認できない
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	6 ヶ月以内の腎機能の値を記載。（血清 Cr、eGFR）
237	電子カルテによる腎機能チェック
238	オーダー画面で eGFR が表示される（検査前日に確認）
239	電子カルテ R15 で表示
240	カルテ画面、同意書シートから確認できる
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）前日に看護師・医師が腎機能の確認を施行
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。マニュアルで造影を行える基準を決定しており必要時、病棟や外来へハイドレーションの確認をしている。
245	eGFR 値が自動で検査票に反映される

⑤-8「造影剤アレルギー・副作用情報を事前にチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=211)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に組み込まれている
2	電子カルテと R I S が連携されている R I S に患者情報を残している
3	造影剤問診票をチェック
4	電子カルテ上のアレルギー情報を検査前に看護師・放射線技師が確認している。
6	電子カルテにて表示

回答 ID	具体的な内容
7	電子カルテシステム内に事前聴取としてアレルギーチェック項目に入力され、システム内で指示がロックされる
9	過去に起きた副作用が放射線システムで確認できるようになっている。
10	電子カルテ情報から検索
11	電子カルテの所定の場所に記録がある
12	検査前に前回アレルギーが RIS で確認できる
13	電子カルテのアレルギー情報
14	アレルギー薬品に登録にて電子カルテに表示と問診表にて患者確認実施
15	事前チェック、直前チェック
17	同意書、問診
18	問診票、電子カルテ、RIS にて確認
19	必ず事前に問診票と同意書を取っている
20	RIS:放射線システムにコメントがあれば見れる。 HIS:電子カルテのプロファイルに記載がある。
21	電子カルテ「造影剤によるアレルギー登録」
22	問診表
24	電子カルテのアレルギー等情報は二次システムで赤く表示される
25	電子カルテで、患者を検索するとアレルギー暦を最初に見ることができる
26	毎回記入してもらう問診票に項目がある 造影用静脈ライン確保時に看護師が確認し、検査時に技師が確認する
27	電子カルテから RIS の連携
28	電子カルテ。 部門システムの患者情報。
29	ミニカルテを開くと禁忌・アレルギーが表示される
30	RIS 上に過去の検査時のアレルギー情報が表示される。
31	問診票による確認、電子カルテ情報を RIS 端末に反映する
32	放射線システム及び病院システムへの入力した場合に患者名の欄に表示される。
33	④-9 と同じ
34	看護師が事前に情報収集してから施行する
35	電子カルテにより事前にチェック可能
36	問診表と電子カルテに、チェック欄がある
37	RIS、電子カルテ上造影剤アレルギー・副作用情報は表示される
38	電子カルテの患者基本情報が共有されている
39	問診表と電子カルテの禁忌薬剤・アレルギー情報
41	④ー 9 と同じ
42	電子カルテで、事前に検査歴から調べている 患者の問診票から情報収集

回答 ID	具体的な内容
44	問診票を確認できるようにしている。電子カルテ上でブロックがかかりオーダーが入力できない。副作用の履歴があれば放射線部門システムに患者メモとして残っている。
46	診療録に記載あるため、医師が指示を出す際に参照する。
47	薬剤師が電子カルテに記録している（付箋貼付）。
51	電子カルテの表紙に表示される仕組みになっている。
52	担当者が電子カルテや同意書で確認
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	「検査説明・同意書」内にチェック項目あり 電子カルテオーダー時にもチェック項目として有
56	医師、看護師以外に診療放射線技師による問診
57	同意書と問診票を担当技師と担当看護師でダブルチェック
58	説明・同意書による確認
59	問診表で確認
61	問診票によるチェック
62	電子カルテおよび患者本人もしくは家族が記入する問診票からアレルギー情報を得ている
64	電子カルテ 同意書
66	造影剤アレルギーのある方は、オーダーに記載されている。
67	造影剤問診票同意書によるチェックと電子カルテによるチェックと部門システムでのチェック。
68	H I S、R I S、問診表を利用
69	患者の基本情報にアレルギーの入力がされ、電子カルテの上部にアレルギーがある場合はマークの表示がされる。放射線のシステムに過去のアレルギー情報を入力している。
70	電子カルテ上のアレルギー項目が放射線部門システム上にも表示される。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
72	電子カルテの禁忌欄のチェック及び副作用歴のチェックを行う
73	問診票 電子カルテ
75	電子カルテのアレルギー情報参照
76	以前にアレルギー歴のある方は、放射線オーダーや電子カルテに追記して情報を共有している。

回答 ID	具体的な内容
77	電子カルテの患者プロフィールのアレルギー情報、「あなたのお薬に関する情報カード」⇒複写になっており、1枚は患者に渡している
78	電子カルテにて、アレルギー情報を確認できるようなシステムになっている。
79	問診票の確認
80	造影 CT 施行前チェック記録を用いて、事前に本人または家族に聞き取りを実施することを必須としている。
81	オーダー時チェック、同意書確認時
82	禁忌登録
83	オーダー時にヨードアレルギーを確認する項目がある
84	電子カルテに副作用、アレルギー情報が示してある
85	電子カルテ、RIS
86	電子カルテアレルギー情報（アイコン表示） ヨード造影剤検査問診票による確認
87	同意書に記載されている
89	オーダー画面上で撮影時に再度 副作用 検査歴を確認
90	電子カルテの患者プロフィール、放射線部部門システム（RIS）の患者情報を確認し事前に情報共有している。
91	紙面で確認
92	検査予約時に医師と看護師で聞き取りを行い、検査直前に放射線技師が再度聞き取りを行っている
93	検査前の同意書、問診書にチェック項目がある。
94	オーダーリング患者基本情報
96	電子カルテに登録しておく、検査オーダー時に警告が出る
97	問診票にアレルギー・副作用のチェック項目があり、問診票が手元にある状態でのみ造影検査を行う。
98	電子カルテにて確認
99	問診票確認および電子カルテ・R I S システムのアレルギー情報の確認
100	電子カルテの患者基本情報に、様々なアレルギー情報が入力されているのを確認する。
101	電子カルテの禁忌情報の確認、検査オーダー時の問診票の確認
102	問診票でのチェック。事前に放射線科受付に連絡が入る。RIS での確認（患者コメントとして入力すると、検査時にメッセージが表示される。
104	部門システム上に表示機能がある。
105	医師が問診票の内容確認、聴き取り
106	ヨード造影剤使用前に問診を行う
107	アレルギー情報が表示される
108	造影剤使用に関する同意書、RIS への入力を参照できる。

回答 ID	具体的な内容
110	造影剤同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	電子カルテチェックボックス 放射線部門システムの記録欄
112	以前の造影剤同意書と放射線システムの患者情報の確認
113	電子カルテの患者基本の確認および同意書の確認
114	電子カルテに表示される
115	造影剤同意書
117	HIS と RIS が連携している。
118	チェックリストを使用してチェックしている
119	造影剤使用同意書に記載するチェック項目がある。
120	HIS, RIS のコメント、問診の確認
123	アラート設定
124	問診票、事前口頭確認
125	電子カルテ上のチェックリスト入力で確認
127	検査前に同意書を提出してもらっている
128	問診票と電子カルテ内の患者基本情報で確認
129	電子カルテで前回の記録をチェックする
130	放射線情報システムまたは電子カルテより確認
131	アレルギーがあれば電子カルテ上にアと赤字で表示される
132	過去に起こったアレルギー情報は RIS へ記載している。検査前日にも検査準備票に、このアレルギー情報が記載されるのでチェックできる。 検査当日は、問診票にて確認。また、技師と看護師でダブルチェックし、問診票に記載されているダブルチェック欄へサインする。
133	RIS にて検査開始時にアラートが表示される
134	造影剤アレルギーを確認することになっている
136	同意書
137	電子カルテの「患者プロファイル」画面で確認
138	電子カルテで確認可能 検査依頼書の禁忌欄に禁忌情報が自動印字される
139	④-9 にて回答したように、検査室に伝わる。
140	造影剤の同意書に記載欄がある 電子カルテに過去の副作用履歴が表示される
141	患者バーコード読み取り時にポップアップ
142	電子カルテでチェック
144	・検査オーダー画面で確認できる ・直前に患者から確認
145	RIS および問診票を検査前に確認する
147	⑤-7 と同様
149	電子カルテシステムにアレルギーを入力するところがあり、アレルギーの陽性患者の場合は検査申し込みが出来なくなっている。

回答 ID	具体的な内容
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
152	問診票 電子カルテ
153	電子カルテ禁忌情報、問診票、放射線システムで過去の検査歴の3か所で確認している
154	Q25 同様
155	電子カルテの患者基本情報にアレルギーの入力欄がある 治療チェックカードに入力欄があり転記する
156	検査予約票、HIS, RIS 画面に既往歴が残っている
157	造影問診票にて副作用チェックを行っている
158	電子カルテ内にて記録されている
159	診断 RIS 画面に表示される。電子カルテに表示される
160	問診票の確認 アナムネで患者情報入力する際に禁忌項目で確認
161	検査前に看護師によりチェックリストで確認を行う
162	同意書の確認
163	指示出し時と同じ。
164	造影剤副作用歴がシステム管理されており、RIS 上でも確認できる
166	4-⑨に同じ
167	⑤-7 同様、事前に問診票にてチェックしている。PC 上でもアレルギー副作用情報を入力している。
168	放射線システムに履歴がある場合は表示される。電子カルテにも履歴がある場合は付箋がある
169	放射線部門システムの情報と問診票にてチェックしている。
170	看護師が問診用シートに記載するとともに、放射線室において電子カルテ上での禁忌事項項目、既往歴の確認を実施
171	問診票に記載欄があり、検査前にチェックしている。
172	電子カルテ画面の患者バーに表示/放射線科連携システムに表示される
173	禁忌情報に入力
174	電子カルテ 紙面問診票 放射線情報システム
175	放射線情報システムで確認する。
176	同意書および問診書にチェック項目がある。電子カルテの患者プロフィールに造影剤アレルギーの項目がある。
177	事前に問診票でチェックする
178	患者カルテの造影剤禁忌情報へ薬品名を登録しておくことで指示入力時にアラート表示される。
180	造影剤同意書の発行にて、造影剤アレルギー・副作用の既往を記入する欄がある。

回答 ID	具体的な内容
181	オーダー内容確認時に、電カルのアレルギー情報を確認している。既往がある場合、部門システムに画面に、発生時の状況を入力している。
182	電子カルテの患者情報へ禁忌情報を入力すれば部門システムへ情報が伝達される。
183	同意書によるチェック
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票・検査前の状況確認
187	電子カルテ表示
188	看護師が投与直前に問診表を確認している。
189	電子カルテ上で副作用情報をチェックする
190	検査票の造影剤アレルギーのチェック欄の確認と電子カルテ上でのアレルギー歴の確認をする
191	電子カルテ内の造影剤アレルギー欄に登録している。
192	電子カルテ上色つきで表示。色つきがあればくわしく電子カルテチェック。
193	造影検査問診票
194	患者基本情報のアレルギー登録を反映 造影剤投与前に放射線技師と看護師がチェックする
195	過去の情報を患者通知情報からチェックすることがルールとなっている
196	電カルで事前に確認
197	説明と同意の際に確認している。
198	問診票で確認
199	RIS オーダに造影剤副作用マールが表示されている
200	アレルギー時には患者情報に必ず載る仕組み、検査時見える
201	問診票を確認し、電子カルテの腎機能検査の結果を確認する。
202	問診票・造影剤管理システムでチェック
203	問診票にて確認
204	同意書の確認
205	造影問診表項目
206	紙面にて問診を行う
207	アレルギー情報を確認し医師が造影剤使用の有無、及び種類を決定する
209	PSI および電子カルテで確認する。
210	放射線システムでチェック 問診票の記載
211	検査依頼医による問診票の電子カルテ上での閲覧による確認。
212	電子カルテのアレルギー情報を確認している。
213	医師がオーダー時にチェックした項目を部門システムにて確認。
214	技師支援システムでの確認と患者からの聞き取り
215	検査依頼医による問診票の電子カルテ上での閲覧による確認。

回答 ID	具体的な内容
216	規定の問診票があり、患者に問診する。過去にアレルギー反応があった場合は、電子カルテに記録されているので確認する。
217	カルテでチェック
218	電子カルテにアレルギーを登録
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
220	問診票で確認
221	電子カルテの情報が RIS に上がる。放射線共通メモで情報共有できる
223	電子カルテの表示
224	造影剤問診票の記入、電子カルテアレルギー情報参照する。オーダー時にアレルギーチェックがある。
225	準備段階でカルテ内のアレルギー登録欄、同意書のアレルギー欄を確認する。
226	電子カルテより最新のデータを得てチェックしている。
227	問診票を利用している
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	記載済みの問診票にてダブルチェック
230	造影時に電子カルテで確認
231	過去の副作用履歴は RIS 上にて確認できる。問診表の確認。
232	CT 問診票・同意書にて
233	上記によりカルテ保存と確認ができる
234	問診票や電子カルテの患者情報（医療安全情報）で確認する
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
236	電子カルテに登録。どの職種でも確認できる。
238	検査オーダー指示画面及びカルテ上で副作用情報が表示される（検査前日に確認）
239	電子カルテ R15 で表示
240	カルテのアレルギー一覧画面から確認できる
241	同意書記入確認 カルテの禁忌欄で禁忌薬の有無確認 検査処置のパス 造影剤使用時の服薬チェックリスト→薬剤師
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）アレルギー登録患者の電子カルテでのアイコン表示
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。対応フローを作成し、電子カルテ上で確認できるよう公開している。
245	電子カルテを使用

⑤-9「メトホルミン製剤をチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=167)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に組み込まれている
2	あらかじめ電子カルテでチェック
3	糖尿病患者には事前に医師が内服の有無を確認し休薬を指示する
4	検査前に患者から看護師・放射線技師が聞き取りをしている。
6	電子カルテにて表示
7	造影予定が組まれた際には薬剤師がお薬手帳等の情報をチェックし、患者に直接指導を行う他放射線科でも内服薬のチェック体制がとられている（写真付きリストは薬局で作成）
8	一覧で確認
11	問診項目に質問項目があり電子カルテに情報が残る
13	同意書
14	基本問診票チェックと薬剤写真画像にて患者への聞き取り実施
15	事前チェック
18	問診票にて確認
19	必ず事前に問診票と同意書を取っている
20	ヒグアナイド系を使用している患者はチェック表を持ってくる。
21	書面を用いた、チェックリスト
22	問診表
24	問診表に記載欄を設けている
25	検査オーダー時に外来看護師がチェックリストで聞き取り確認する。検査前に再度確認する。
26	毎回記入してもらう問診票に項目がある 造影用静脈ライン確保時に看護師が確認し、検査時に技師が確認する
27	問診頼り
28	電子カルテ。問診票。
29	造影剤同意書に糖尿病薬についての問いがあり、使用している場合はお薬を聞く
31	問診票で糖尿病の既往および内服治療内容を確認する
32	問診票への記載をしている
33	④-10 と同じ
34	看護師が事前に情報収集してから施行する
35	電子カルテにより事前にチェック可能
36	問診表に、チェック欄がある
38	指示を受けた看護師が患者の現在の服薬情報を確認している

39	検査同意書内に、メトホルミンのチェック欄と休薬説明がある。
41	④ー10と同
42	患者の問診票からの情報収集と、指示が出された外来・病棟看護師の電子カルテからの記載を確認する。
44	問診票を確認できるようにしている
46	診療録に記載あるため、医師が指示を出す際に参照する。
47	薬剤師が電子カルテに記録している（付箋貼付）。
51	電子カルテで投与薬剤が容易に確認できる。
52	担当者が電子カルテや同意書で確認
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
55	「検査説明・同意書」内に服用チェック項目あり
56	診療放射線技師による問診
59	問診表で確認
61	問診票によるチェック
62	薬剤師への問い合わせで確認している
64	電子カルテ 同意書
67	造影剤問診票同意書によるチェック（事前にメトホルミン製剤の写真での患者さんへの聞き取り）。
68	HIS、問診表、検査当日の問診
69	問診票で確認をしている。各診察室に一覧表を提示し、患者に問診する際に確認している。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。当日、検査前にも最終確認を行っている。
72	オーダー時に医師がチェックを行えば検査依頼にチェック済みの文言が表示される。技師は手順書により、糖尿病病名のある患者の処方を確認することとなっている
75	問診票参照
76	問診票にてのチェックのみ
77	前日電子カルテで放射線技師が確認している
78	電子カルテにて、服用薬剤の種類を確認できるようなシステムになっている。
79	問診票の確認
81	同意書確認時
82	処方オーダー
83	オーダー時にメトホルミン塩酸塩内服を確認する項目がある
85	電子カルテ、同意書の問診欄
86	ヨード造影剤検査問診票による確認

87	同意書に記載されている
90	電子カルテより確認、患者本人への問診により情報収集している。
91	紙面で確認
92	検査予約時に医師と看護師で聞き取りを行い、検査直前に放射線技師が再度聞き取りを行っている
94	問診票
96	電子カルテで入力画面があるため、容易に確認できる
97	問診票にメトホルミン製剤のチェック項目があり、問診票が手元にある状態でのみ造影検査を行う。
98	電子カルテにて確認
99	問診票確認
100	オーダー時にメトホルミン製剤内服の有無を入力。検査依頼票に明示される。
101	検査オーダー時の問診票を確認
105	医師が問診票の内容確認、聴き取り
106	ヨード造影剤使用前に問診を行う
108	造影剤使用に関する同意書に内服の有無のチェック項目があり、参照できる。
110	造影剤同意書に医師記入欄あり 当日チェック体制あり
111	電子カルテチェックボックス 放射線部門システムの記録欄
112	造影剤同意書の確認、申し送り
113	同意書による確認
114	造影剤問診票でチェックできる
115	造影剤同意書
117	オーダー時に医師がチェック
118	チェックリストを使用してチェックしている
119	造影剤使用同意書に記載するチェック項目がある。
120	HIS, RIS のコメント、問診の確認
123	アラート設定
124	問診票、事前口頭確認
125	電子カルテ上のチェックリスト入力で確認
128	同意書で確認
129	オーダーで処方されている薬剤をチェックする。お薬手帳の確認。
130	電子カルテより確認
132	検査前日に受付事務がカルテにて同意書の「ビグアナイド薬」をチェックし、技師へ申し送る。検査当日は、問診票にて確認。また、技師と看護師でダブルチェックし、問診票に記載されているダブルチェック欄へサインする。
133	問診票にてチェックする
134	オーダー時にチェックリストが表示される

136	同意書
137	造影剤問診票
138	電子カルテで印字可能
141	同意書に記入
142	同意書に糖尿病薬名などの記があり、薬剤一覧と照らし合わせてチェック
144	・検査オーダー画面で確認できる ・直前に患者から確認
145	問診票記載の内容を検査前に確認する
147	⑤-7 と同じ
149	オーダー時の問診で本人に確認している。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
151	問診票に記載欄あり、電子カルテと本人聴取より旧約機関の確認
152	問診票 電子カルテ
153	検査説明時と問診票でチェック
154	Q26 同様
155	同意書にチェックする欄がある。 放射線科のオーダーリングシステムと連動している
156	検査予約票にて確認
159	診断 RIS 画面に表示される
160	造影検査の説明・同意書書類をもって患者へ説明 外来より病棟との連携としてカルテ内共有している
161	検査前に看護師によりチェックリストで確認を行う
162	同意書の確認
163	指示出し時と同じ。
164	造影 CT オーダー時にビグアイド系糖尿病薬内服の有無を選択することとしている
166	4-⑩に同じ
167	⑤-7 同様、事前に問診票にてチェックしている。
169	問診票にてチェックしている。
171	問診票に記載欄があり、検査前にチェックしている。
172	放射線科連携システムに表示される
174	電子カルテ 紙面問診票
175	電子カルテとお薬手帳で確認する。
176	同意書および問診書にチェック項目がある。
180	造影剤同意書の発行にて、メトホルミン製剤の使用を確認する欄がある。
181	オーダー内容確認時にチェックしている。
183	同意書によるチェック
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票・お薬手帳
187	CT 依頼時にチェック

188	看護師が投与直前に問診表を確認している。
189	問診票による聞き取り
190	検査票のチェック欄と問診票の確認をする
191	造影剤検査の同意書にメトホルミン製剤の使用有無を確認する欄がある。
195	造影検査前のチェック項目に準じてチェックしている
196	電カルで処方を事前に確認
197	入院患者であれば入院時に薬剤師が内服薬の聞き取りを行い、入力している。
198	問診票で確認
199	問診表にて確認
201	問診票を確認し、電子カルテの腎機能検査の結果を確認する。
202	問診票でチェック
203	問診票にて確認
205	造影問診表項目
207	休薬時期、及び腎機能（e-GFR）により医師が造影剤使用の有無を決定する
209	PSI および電子カルテで確認する。
211	⑤-8に同じ。
213	検査前に口頭で確認している。検査の同意書にも記載あり。
214	技師支援システムでの確認と患者からの聞き取り
215	⑤-8に同じ。
216	規定の問診票があり、患者に問診する。電子カルテで院内処方薬を確認する。
217	カルテでチェック
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
220	問診票で確認
224	造影剤問診票の記入
225	準備段階でカルテ内のアレルギー登録欄、同意書のアレルギー欄を確認する。
226	RIS で受付をしたとき、アレルギーがあればアラートが出る。RIS に副作用情報が記入されていれば、赤色に変わるようにしている。
227	問診票を利用している
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
229	記載済みの問診票にてダブルチェック
230	検査予約票に記載 口頭にて確認
231	造影剤使用時の問診表で確認できる。
232	CT 問診票・同意書にて
233	「問診票・同意書」にチェック項目としている
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。

236	服薬確認し、「中止を説明した」「服用していない」をチェックする仕組みがある。
241	⑤-8 と同
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）
244	前日に電子カルテにてチェックを行いリスク患者を把握。休薬指示がない場合、実施について主治医へ確認を行う。
245	電子カルテを使用

⑤-10「 β 遮断剤服用有無をチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=65)

回答 ID	具体的な内容
6	電子カルテにて表示
21	書面を用いた、チェックリスト
25	検査オーダー時に外来看護師がチェックリストで聞き取り確認する。検査前に再確認。
26	毎回記入してもらい問診票に項目がある 造影用静脈ライン確保時に看護師が確認し、検査時に技師が確認する
28	電子カルテ。問診票。
35	電子カルテにより事前にチェック可能
36	問診表に、チェック欄がある
44	問診票を確認できるようにしている
52	担当者が電子カルテや同意書で確認
57	同意書と問診票を担当技師と担当看護師でダブルチェック
59	問診表で確認
61	問診票によるチェック
62	薬剤師への問い合わせで確認している
64	電子カルテ 同意書
67	冠動脈 CT で使用する場合の医師によるオーダー時にコメント入力をしてもらっている。
69	お薬手帳の確認をしている。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
73	問診票 電子カルテ
78	電子カルテにて、服用薬剤の種類を確認できるようなシステムになっている。
79	問診票の確認
81	同意書確認時
85	電子カルテ、同意書の問診欄

回答 ID	具体的な内容
93	検査前の同意書、問診書にチェック項目がある。
105	医師が問診票の内容確認、聴き取り
111	電子カルテチェックボックス 放射線部門システムの記録欄
112	造影剤同意書の確認、申し送り
115	造影剤同意書
117	オーダー時に医師がチェック
129	問診票にチェック項目がある
133	問診票にてチェックできる
134	オーダー時にチェックリストが表示される
138	電子カルテで印字可能
141	同意書に記入
144	・検査オーダー画面で確認できる
145	RIS オーダーで確認し、さらに指示書を確認する
149	オーダー時の問診で本人に確認している。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
152	問診票 電子カルテ
156	検査予約票にて確認
162	同意書の確認
163	指示出し時と同じ。
172	放射線科連携システムに表示される
175	電子カルテと放射線情報システムで確認する。
176	同意書および問診書にチェック項目がある。
181	オーダー内容確認時にチェックしている。
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票の確認
188	看護師が投与直前に問診表を確認している。
190	心臓 CT 検査時のみ検査票のチェック欄の確認
191	病棟薬剤師が持参薬確認で把握し情報共有している（入院）
197	⑤-9 と同様
198	問診票で確認
209	PSI および電子カルテで確認する。
214	技師支援システムでの確認と患者からの聞き取り
216	規定の問診票があり、患者に問診する。 電子カルテで院内処方薬を確認する。
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
226	
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。

回答 ID	具体的な内容
229	記載済みの問診票にてダブルチェック
231	電子カルテで服用履歴は分かるが、RIS に反映されない。
232	CT 問診票・同意書にて
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
241	⑤ - 8 と同じ
242	問診票で確認（オーダ時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）
245	電子カルテを使用

⑤-11「禁忌病名（甲状腺疾患など）をチェックできる仕組みがある」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=77)

回答 ID	具体的な内容
1	造影検査同意書の項目に組み込まれている
4	検査前に患者から看護師・放射線技師が聞き取りをしている。
6	電子カルテにて表示
10	電子カルテ 既往歴から検索
13	同意書
19	必ず事前に問診票と同意書を取っている
20	造影剤使用同意者に記載がある。
26	毎回記入してもらう問診票に項目がある 造影用静脈ライン確保時に看護師が確認し、検査時に技師が確認する
27	喘息、バセドウ
28	電子カルテ。問診票。
30	RIS 上に疾患があれば書込みがあるので確認できる。
32	Q36 と同様
35	電子カルテにより事前にチェック可能
36	問診表と電子カルテに、チェック欄がある
53	造影検査問診チェック表の項目にあり、チェックをかけないと検査が出来ない仕組みになっている
56	診療放射線技師による問診
57	同意書と問診票を担当技師と担当看護師でダブルチェック
58	説明・同意書による確認
59	問診表で確認
61	問診票によるチェック
64	電子カルテ 同意書

回答 ID	具体的な内容
65	問診でチェックしている
67	造影剤問診票同意書によるチェックと電子カルテによるチェック。
71	造影剤使用検査に関しては全症例、同意書が必要であり医師が患者・家族に聞き取りを行いながら作成する。また、検査前日に技師・放射線科看護師が検査のチェックカルテのチェックを行っている。 当日、検査前にも最終確認を行っている。
75	問診票参照
78	電子カルテにて、疾患名を確認できるようなシステムになっている。
79	問診票の確認
81	同意書確認時
83	オーダー時に喘息を確認する項目がある
97	電子カルテのチェック
100	オーダー時に甲状腺疾患の有無を入力。検査依頼票に明示される。
105	医師が問診票の 内容確認、聴き取り
107	既往歴が参照できる
111	電子カルテ 放射線部門システムの記録欄
112	造影剤同意書の確認
113	同意書による確認
114	造影剤問診票でチェックできる
115	造影剤同意書
120	HIS, RIS のコメント、問診の確認
125	電子カルテ上のチェックリスト入力で確認
130	電子カルテより確認
132	検査前日に受付事務がカルテにて同意書の「甲状腺機能亢進症」をチェックし、技師へ申し送る。 検査当日は、問診票にて確認。また、技師と看護師でダブルチェックし、問診票に記載されているダブルチェックし、問診票に記載されているダブルチェック欄へサインする。
133	問診票にてチェックできる
144	・検査オーダー画面で確認できる
145	問診票記載内容を検査前に確認する
149	オーダー時の問診で本人に確認している。
150	電子カルテと紙面を放射線技師が確認しています。
152	問診票 電子カルテ
154	Q27 同様
160	カルテ内・患者情報の禁忌項目を確認 薬剤オーダー入力時に禁忌病名が画面表示される
161	検査前に看護師によりチェックリストで確認を行う

回答 ID	具体的な内容
163	指示出し時と同じ。
169	問診票にてチェックしている。
172	放射線科連携システムに表示される
174	電子カルテ 紙面問診票
175	電子カルテで確認する。
180	造影剤同意書の発行にて、既往歴の確認をする欄がある。また電子カルテ内にも禁忌事項を確認する欄がある。
183	同意書によるチェック
185	オーダー画面に表示するように設定
186	問診票の確認
191	造影検査の同意書に甲状腺疾患、喘息有無等を確認する欄がある。
196	電カルで病名を事前に確認
198	問診票で確認
203	問診票にて確認
207	問診票に記入項目があり、そちらを確認する
209	PSI および電子カルテで確認する。
212	電子カルテをチェックし、検査時に本人に確認。
213	医師がオーダー時にチェックした項目を部門システムにて確認。
217	カルテでチェック
219	放射線情報システムから直近の値が確認できる
226	問診でチェックしている。
228	診療放射線技師がリスの情報から確認している。
231	電子カルテに記載があれば RIS に反映される。
232	CT 問診票・同意書にて
235	主治医が検査オーダーコメントの中にチェックできるシステムがあり、それが放射線部門システムに反映されるため、看護師はそれを見て問診を行い医師に確認している。
242	問診票で確認（オーダー時に担当医師が施行、検査前に診療放射線技師、看護師が施行）
243	RIS（放射線情報システム）より電子カルテに反映

⑤-12「特定の背景を有する患者等注意が必要な患者（旧：慎重投与に該当する患者）へは医師が立ち会っている」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=120)

回答 ID	具体的な内容
1	主治医が立ち会う
6	抗生剤等投与後 医師立ち合いの下 検査
9	造影剤注入時に、医師が患者の近くで様子を見ている。

回答 ID	具体的な内容
10	「医師立ち合い」の標記ある時、指示に従い実施
11	医師の立ち合いが必要な症例では、担当医が自主的に立ち会う
12	アレルギー等がわかっている場合、主治医が立ち会うルールとなっている
13	主治医または指導医に連絡
15	グレードにより依頼医師の立ち合い等の要件あり
17	アレルギーのある患者の造影の際は、放射線科だけでなく、主治医が立ち会う
18	造影剤は全て医師が投与を行っている。
19	当院では全ての造影検査(CT・MRI)で医師の立ち合いのもと行なっている
20	造影剤副作用があった患者やリスクの高い患者には、医師が立ち会う。
24	医師の立ち合いと急変時対応物品の準備
25	患者のカルテから、アレルギー歴を見て、医師に立会いを依頼する。
26	専用予約枠（ハイリスク枠）で運用、この枠は医師が立ち会うことになっている
27	ステロイド前投薬
28	予約検査に関しては、事前に問診票及び部門システムの副作用などをチェックし、医師を on call し来ない限り検査を行わない。当日検査に関しては、外来は全例立会いになっている。
30	全例医師が立ち会っている。
31	院内規定により、定められたリスクレベル以上の患者の県佐治は担当医が立ち会う
34	医師が必要を判断した場合、副作用の予防薬を使用しない場合
35	主治医または放射線科医師が同伴で投与
41	アレルギー・副作用・禁忌・腎機能などある場合は、主治医または、指示医が造影剤注入時に立ち合い、検査終了時に副作用がない事を確認する
42	気管挿管中の患者、急変の可能性がある患者、小児、ベビー
47	原則として医師が立ち会う。
51	造影剤注入時に指示医が立ち会う。
53	造影剤注入時は必ず医師が立ち会うこととなっている 主治医が不在時は外来診察医師へ依頼する仕組みになっている
59	造影検査全例に医師の立ち合い
60	副作用発現の可能性が高いと判断された方や副作用の既往がある方は医師立ち合いを行う
61	検査時医師が同席する。アナフィラキシー等の対応可能な準備確認をして行う
62	自院で過去に造影検査後にアレルギー症状を呈した患者や治療を行った患者を検査する場合
64	指示医師の立ち合い
68	R I S の注意コメントやH I S の付箋を利用
69	気管枝喘息の既往がある、又は治療中でも造影剤を使用する場合は医師が立ち会う。

回答 ID	具体的な内容
70	前日または当日検査内容を確認師、担当医に立ち会うように事前連絡をしている。
71	日中は放射線科医師が同フロアに常駐しており、患者に変化があればすぐに対応する。また、夜間、休日においては造影材を使用する検査には必ず医師が立ち会うことを原則としている。
75	喘息患者の場合は医師立ち合い
76	喘息等の重大なアレルギーを持つ患者でも造影剤を使用しなくてはならない場合は必ず、医師立ち合いにて実施している。
78	事前チェックにより注意が必要と思われた場合、医師に確認を取り撮影が終わるまで立会いの下検査を行っている。
80	腎機能や高齢者の場合、医師が立ち会うこととなっている。
90	電子カルテの患者プロファイルにより事前に拾い上げ情報共有している。
92	放射線部内の部門システム内に情報を入力しているため、以前にトラブル等があった患者の時は放射線科医師に対応をお願いしている
95	指示医又は放射線科医を呼び立ち合いでの撮影。
99	検査前に看護師が血液データ、問診票、前回コメント等を電子カルテで確認して必要な場合、医師に連絡している
102	造影剤使用判断基準（フローチャート）。問診票。同意書。説明書。検査時、医師・看護師立ち合い。事前薬剤投与。
103	全患者のケースで医師が立ち会っている。
104	アレルギー発症後、初回検査での医師の立ち合い
107	放射線科医もしくは主治医の立ち合い
109	依頼時主治医と画像診断科医師によって協議し立ち会っている。
110	条件付き MRI 対応心臓デバイス植え込み患者の mRI
111	コアベータ投与時の冠動脈（心臓）CT ポートから造影をする場合
114	立会いをし検査している
115	副作用あった方の立ち合い
117	CT 確認書でチェックする。副作用歴や喘息、アトピーの治療中など該当した場合は医師が注入する。
121	事前処置(点滴など)をし、医師と相談しながら監視している。
125	放射線科医師が立ち会うか診療科医師が立ち会う
126	検査前、看護師がカルテから情報収集。過去のアレルギー歴などから慎重投与に該当する場合、医師へ報告。医師が立ち会う。情報は看護師と診療放射線技師、医師が共有する。
128	造影剤副作用ありの場合は先発品使用でも副作用あり医師が立ち合いのもとで行う。
129	腎機能が著しく悪い方やアレルギー様症状が出たことがある方、意識レベルが悪い方や乳幼児の場合など

回答 ID	具体的な内容
133	検査指示医の立ち合い
137	造影剤投与時は、放射線科医師が立ち合いを行っている。
139	造影剤アレルギーや喘息患者などは、前処置を行い、医師が立ち会う。
140	主治医が慎重投与と指示した場合は、検査前に呼び出して主治医が立ち会っている
141	心臓 CT
144	・検査オーダー画面で確認できる ・前日にカルテで確認
145	主治医または、放射線科医師が立ち会う（コアベータ使用時など）
152	オーダーした医師が立ち会う
153	放射線科医師が操作室内に待機している
154	喘息などの既往がありどうしても投与しなければならない場合、依頼医師の立ち合いをお願いしている。
155	アレルギーのある患者には必ず主治医が立ち会うルールがある
159	喘息患者などの場合は、医師立会いのもと検査を施行している
162	医師の常駐
163	投与時に医師が立ち会う
169	放射線部門システムで問診票をチェックし、必要であれば検査依頼医師に連絡し立会いのもと造影。
170	常時造影剤使用時には医師が立ち会っている。アレルギーの既往がある場合は、ステロイドの前投薬を実施
172	ヨードアレルギー・喘息の既往など検査オーダー時に医師の立ち合いが必須であることを表示する
174	喘息及びヨードアレルギーなどの造影剤ハイリスク患者の場合は、主治医立ち合いで行う
175	放射線科医、放射線技師の事前チェックが入る。
176	全例、放射線科医師が隣室（読影室）に常駐している。喘息や前処置を行った患者にはオーダー依頼科の医師も立ち会う。
180	前回、造影剤に寄与すると思われる副作用があった場合。
181	オーダー内容確認時に、チェックし、主治医、または放射線科医師へ連絡している。
183	造影剤アレルギーの既往歴のある方。 ぜんそく 5 年以内の造影時
185	既往歴（副作用歴）で判断
186	検査当日朝に主治医へ連絡して、検査時間に立ち会う
187	造影剤注入時の観察
188	造影剤でのアレルギー歴（+） ぜんそくの既往歴（+）
191	全ての造影検査において医師の立ち合いの下で行っている。
192	主治医立会い
193	造影検査、造影剤注入前に医師に連絡し、立ち合い依頼

回答 ID	具体的な内容
203	問診票にて確認
205	放射線科医師が立ち会っている。
207	注入中は医師が立ち合い、検査終了まで検査室内で待機している
209	造影剤投与時に医師が立ち会っている。
211	造影剤の注入は全件、歯科医師が行っている。
212	喘息、アレルギー、過去に副作用がある患者に立ち合い必須としている。
213	造影剤使用時には医師が立ち会っている。
214	過去に造影剤でアレルギー反応があった方や喘息、著しい肝腎機能低下等のある方は医師が立ち会う
215	造影剤の注入は全件、歯科医師が行っている。
216	医師の指示がある場合、立ち会っている。
217	ぜんそく、軽度の副作用歴
219	放射線科医が立ち会う
224	放射線医、主治医立ち合い
226	検査室の操作室で立ち会っている。
228	放射線診断科の医師が近くに常駐している。
230	造影剤アレルギーが分かっている患者の造影を行う場合は放射線部医師ではなく、担当科医師にお願いしている。
231	患者に鎮静をかけて検査をする、意識状態、全身状態が悪い等はモニター装着、バイタルサインズ測定できる準備して医師が立ち会う
232	CT 問診票・同意書にて
233	・前回アレルギーが出現したが、経過観察で造影剤が必要な場合 ・腎機能障害があり、以前にも他の造影剤でアレルギーがあった場合
234	BA や副作用の既往があった時は主治医立ち会いのもと行う
235	活動性喘息の患者の場合には主治医が立ち会っている
236	基本的には放射線科医師が立ち会う。放射線科医師の判断で重症患者の場合は主科の医師の立ち合いを要請する。
238	造影検査時は基本的に医師が立ち会う
239	当院が設定する「看護師が担当する造影患者」の基準から外れるため、医師造影となる
240	原則造影検査時は全て医師他立ち合いで実施。アレルギー既往のある方については、主治医や上級医が立ち合う
242	副作用発生時の対応を整え（予め救急医療部に連絡・救急カートを施行検査室に移動）オーダ診療科医師の立ち合いのもと施行
243	造影剤副作用があり、前投薬を行った場合

回答 ID	具体的な内容
244	副作用患者は放射線科医師の立会いのもと実施。造影可能な基準を満たしていない場合、同意書に不備がある場合、PICC からの造影の場合、造影剤禁忌の患者の場合、時間外実施の場合は主治医が造影を行う。
245	造影剤の注入が終わるまで立ち合いを行う。

⑤-13「造影剤漏出対策を講じている」を選択した方にお伺いします。具体的な内容をお答えください。

(n=143)

回答 ID	具体的な内容
2	逆血があるか確認する。ない場合はラインの撮り直しをしている。22Gなどのh 祖い針が入っているときは注入速度を落としている。
4	造影剤注入器で注入圧の設定と監視を行っている。
6	生理食塩水 事前投与
9	インジェクターによる圧力確認。看護師と医師によるルート確認。注入時は可能な限り看護師の立ち合い。
10	漏出対策のマニュアル作成
11	投与前後には担当看護師が決められた項目を確認している
12	マニュアルを整備し共有している
15	検査室で投与時患者およびルートの確認をし注入器の圧力をグラフで確認。CT 画像による造影剤の確認
17	造影剤注入前の確認
18	逆血確認を必ず行い、確認が取れない場合は改めてルート確保などを行っている。
19	サーフロー針留置後、造影剤を接続し、血液の逆流と造影剤の注入を手動で確認している
20	穿刺時に生理食塩液で確認をする。 インジェクターに付属している漏出対策
22	氷嚢や湿布等を常備している。一定以上の圧力がかかったら注入を止めている。（注入装置を使用している場合）
24	生理食塩水による逆血確認、インジェクター波形の確認、注入中、注入部位の触知確認
25	2ml のテスト注入と急速に注入する際の目視
27	注入中の観察
28	逆血を確認。穿刺部位の伸展。滴下不十分な場合注入ルートを下げる。注入中確認する。但し検査種によっては出来ない。
29	造影剤テストとして 10 c c 流す。その際漏れがないかチェックしている。
30	37℃に加温している。血管の脆い場合は注入圧を下げる。
31	CT 検査では、漏出検知システムを使用している

回答 ID	具体的な内容
32	造影剤漏出管理マニュアルがあり、フローに従って対応が行えるように徹底されている。
34	造影剤漏出検知器の使用
35	造影剤投与時には刺入部を目視や声掛けにより確認
37	ダイナミック撮影時は漏出検知システムを使用（日中業務中） 医師または看護師による立会いによる確認
38	医療安全マニュアルに漏洩時の対処方法が明記されている
41	注入前に生食を全開で滴下して滴下速度、穿刺部の腫れなどを放射線技師と看護師でダブルチェックを行う
42	造影剤漏れセンサーの仕様
45	ルート確保の静脈を大きな血管を対象 逆血を確認して投与
46	注入漏れが発生すると注入圧が変わるため、圧上昇があれば自動注入器が停止する仕組みになっている。また、注入後は診療放射線技師が注入部位を確認し、その後は注入圧モニターを確認して漏れが疑われた場合にはすぐに対応（注入停止など）できるようにしている。
51	造影剤注入開始時に看護師が目視および触診で確認している。
53	造影剤使用時の血管確保は必ず 20G で正中に確保する事、また造影剤注入時、1 分位は看護師が傍で付き添って観察している
55	造影剤注入前の逆血確認、注入 reto と同じ rato での生食テストインジェクション
57	レベルに応じた対応処置を行うため、マニュアルがある
58	ステロイド等の局注、形成外科医師の診察
59	注入時、医師が患者のそばで見守り。
61	注入時確認、漏洩時のマニュアルの整備
62	看護師が造影剤注入時にスキャン直前まで患者の状態をそばで確認し、痛みや刺入部の確認を行っている
64	対応マニュアルあり
68	注入時は医師または看護師が立ち会う
69	漏れた場合は速やかに主治医に報告し、皮膚科受診としている。
70	ルート挿入時の逆血確認を徹底している。漏出時にはマニュアルに沿って対応している。
71	ルート穿刺時には関節を避け穿刺し生理食塩水を接続し、点滴が落ちるか痛みが無いか確認を行う。また検査施行前には逆血の確認を行い造影剤漏出予防に努めている。
72	病棟または外来にて留置針及び耐圧チューブによるルート確保を事前に行い、検査直前にも看護師によるルートのチェックを行う
73	院内フローに従い、程度により対応を明確化
77	漏出マニュアルに沿って行っている

回答 ID	具体的な内容
79	血管漏出対応マニュアルを常備している。
80	検査技師：圧力計（圧力グラフ）で確認、看護師：注入中に穿刺部位の確認をする
81	流量確認、観察
87	マニュアル作成を行っている
89	CTA 時には注入前に再度 逆血の有無の確認をしている
90	インジェクターの漏れセンサー機能を必要に応じて使用し、刺入部の目視、触知を可能な限り行う。
91	造影剤注入中は患者の傍にいて観察する
92	造影剤をつなぐ前に、10 生食を急速注入確認し、バックフローも確認している。造影剤注入時は、技師がインジェクターの注入圧のチェックと腕の張りや痛み等の聞き取りをしながら行っている
93	漏洩時の対処マニュアルを作製している。
94	静脈可視化装置
96	自動注入器に圧力リミッターがついている。造影剤注入中に目視で確認している
99	あらかじめ生食でルートキープしている。直前に逆血の確認
100	注入器を使用する場合は、静脈留置針の穿刺部に、注入圧センサーを装着。漏出した場合は、血管外漏出対策に沿って対応。
101	造影剤注入前に看護師、放射線技師でルートの確認
102	造影剤注入器に漏れセンサーを搭載している（実際は、ほとんど使用していない）。造影剤注入時に付き添っている。
105	看護師が注入時に部位確認。異常があれば医師に報告し、指示をもらう
107	圧力センサーモニターを使用
109	漏れセンサーの使用。
111	自動注入器の造影剤漏洩センサー使用
112	逆血の確認
114	静脈に最適な径のプラスチックカニューレを使う
115	造影剤漏れ確認画像を撮影
117	生食のフラッシュ、注入停止の取り決め、穿刺部位の触知など
118	各部署に薬剤の血管外漏出対応フローチャート及び対応セットを配付している。又、セットの中身は中央部門で管理している。
121	事前に点滴などして造影ルートの良し悪しを確認。投与直後は、腫れ、漏れがないかを目視確認している。
122	看護師による血管確保時の逆血の確認と、放射線技師による造影剤注入圧のモニタリングを行っている。
124	投与時、刺入部を見て触れながらチェック
125	造影剤注入前の血液逆流確認

回答 ID	具体的な内容
126	造影剤投与前の血液の逆流の有無の確認。造影剤の注入圧のモニタリング。放射線技師が投与時、造影剤注入圧を確認する。
128	点滴セットには耐圧式のラインを用いている。漏出時のマニュアルがある。ただちに中止し速やかに冷罨法、受診する。造影剤漏出用パッチを使用する。
129	患者にブザーを持たせ、痛みなどがあれば、すぐに押してもらふ。注入中の圧を見られるようにしている
132	穿刺後、生食シリンジにてフラッシュテストを行う。 検査中：ダイナミック撮影では穿刺部位をビデオカメラにて撮影し、その画面を操作室でリアルタイムで確認している。
133	肘部にシーネをあて上肢を真っ直ぐする
138	逆血の確認 撮影直前までの観察
139	逆血の確認、点滴の落ちの遅い場合は、注入時に刺入部の確認を行い、漏出を確認次第即時に止められるよう準備している。
140	マニュアルが整備されており、直ちに対処できる体制を取っている
143	看護師が患者に付き添い、放射線技師が試験注入を実施。漏れが無い事を確認してから患者の元を離れ、注入開始する。
144	・マニュアル作成 ・発生時には担当部署に連絡
145	看護師が、造影剤注入直後から撮影までの間、刺入部の観察を行ない、対応している。漏出した場合は、放射線科医師にすぐに報告する。
147	造影剤注入開始前に看護師と技師で逆血確認し注入まで看護師は放射線室にいる
149	造影剤注入時は必ず看護師または技師が立ち会う。
150	撮影内容により、針の大きさと血管の位置を確認し、撮影する姿勢にて点滴の落ち方、逆流を確認し、異常有れば取り直しています。
152	注入中しばらくの間看護師が近くで観察する
153	観察と患者指導（痛みなどの出現時は申し出るように）
155	医療安全マニュアルに血管外漏出時に注意を要する医薬品対応があり、その中に造影剤の項目がある
158	マニュアル作成や研修を行っている
159	生食フラッシュで確認。漏出センサーを使用している
161	看護師が穿刺後、放射線科医によりルートを確認を行う
167	血管外漏出については、発生時フローチャートに準じ対応している。
169	注入時、観察できない場合は漏れセンサーを使用。
171	注入中は穿刺部を観察し、すぐにインジェクターを停止できるようにしている。
174	トレーニングを受けた看護師及び医師により注入前、注入中の確認を行う
175	造影剤自動注入器の機能と症状確認。
176	看護師は逆血の確認を行っている。逆血のないルートに関しては再穿刺を依頼する。

回答 ID	具体的な内容
179	ライン確保時から造影剤検査の時間を短くする。
180	血管確保は必ず逆血の確認をしている。造影剤の注入開始から看護師または放射線技師による、目視・触知、また患者さんへの声掛けなど実施している。
181	医療安全マニュアル「血管外漏出マニュアル」フローに沿って対応している。
182	漏出時対応マニュアルを作成している。
185	逆血、滴下の確認と注入時の立会い
186	漏出センサーの導入・注入時の用手・目視確認
187	血管漏出キットの配置
188	漏出時の対応マニュアルを作成している。
189	テスト注入を実施している
190	造影剤漏れ検知サポートシステムを併用している
191	造影剤注入時に刺入部を触れて、又は目視にて確認している。インジェクターの注入圧の変動を確認しながら注入している。
193	ルート確保後、生食急速注入（点滴）
194	医療安全、放射線部、看護部マニュアルと IV ナース教育
195	血管がもろく細い患者は、注入圧を減圧投与している。
196	逆血確認、注入時目視
202	注入時ベッドサイドで確認
203	マニュアル作成、及び造影開始時に目視と声掛けにて確認
207	ルート確保の際の血液の逆流の確認。注入の際の触診、及び注入器のプレッシャーを観察している
209	出血およびスリルがない場合、ルートは取り直す運用である。
210	注入前後の生食フラッシュ 注入圧を随時チェックする
211	漏出時、迅速に対応できるよう撮影直前まで歯科医師が観察している。冷電法のための器材（シップ等）の常備。
214	造影剤投与直前の生食フラッシュ確認と投与時の圧確認及び観察
215	漏出時、迅速に対応できるよう撮影直前まで歯科医師が観察している。冷電法のための器材（シップ等）の常備。
218	放射線マニュアルに記載
219	漏れセンサーを使用している
220	注入時、看護師による目視 マニュアルを作成しそれに沿って対応している
221	オーダー医師へ連絡し対応
223	造影剤漏出時対策マニュアルがあり、対応策ポスターを掲示している
225	造影剤の漏出量を確認し 50cc 以下、50cc 以上でフローチャートにして現場が対応ができるようにしている。
226	造影剤注入開始後数秒間、看護師が刺入部を触知して漏れがないかを確認している。

回答 ID	具体的な内容
227	造影剤を投与する前に生食にて逆血を目視で確認する
228	注入機器の圧モニターによる監視 看護師による観察 患者への事前説明
230	注入時に検査室内に看護師がプロテクターを来て、目視にて確認している
231	造影剤インジェクターで濾出防止用圧センサーがついている。造影剤使用時は必ず看護師が付き、刺入部の観察、記録をしている。
232	CT 問診票・同意書にて
233	・ルート接続後から造影剤注入前の逆血を確認 ・造影剤注入前の滴下を確認 ・造影剤注入開始時の刺入部痛、目視的異常（腫脹）を確認 ・マニュアルがある
234	血管外漏出対応マニュアルがあり
235	血管確保後の刺入部の観察、逆流血液の確認、圧モニターの確認を行っている。
236	血管確保時の注意点を周知し、圧センサーを使用している。漏出時の対応も標準化している。
239	①造影剤注入前確認、②造影剤注入中確認（穿刺者の観察・場合によってはセンサー装着）で早期の漏出發見、③漏出時の対応フローを作成し、必要に応じて主治医や専門医の診察がルール化されている
242	確実な血管確保の選択、血管確保困難患者への血管確保は医師に協力を得る。造影剤投与中は造影剤自動注入装置の注入圧グラフを監視・患者を監視モニタで見守り、緊急時は速やかに注入を中止。漏出發生時はマニュアルに沿って対応
243	造影剤投与時の圧確認、針先確認
244	救急カートおよび血管外漏出用の薬剤の設置。
245	看護師が撮影前まで確認後退室する

⑥造影剤投与による急変時対応の安全対策や工夫の状況について伺います。

⑥-1 急変時対応の安全対策や工夫はありますか？

(n=241)

ない（→設問⑦へ）	5	2.1%
ある	236	97.9%

⑥-2 「ある」を選択した方にお伺いします。どのような安全対策や工夫をしていますか？（複数回答可）

(n=236)

救急カートを準備している	229	97.0%
アナフィラキシー発生時に対応できる体制を整備している	213	90.3%
β遮断剤服用患者対策として、グルカゴン注を準備している	101	42.8%

急変時対応の訓練等を実施している	146	61.9%
その他	15	6.4%

(n=15)

回答 ID	その他内容
24	ポスター掲示
55	対応マニュアルの整備
89	放射線科医が常駐している
97	C T・MR I 室を救急室の向かいに設置しており、急変時の救急スタッフの呼び出しや、救急室への患者搬送が迅速に行える。
113	急変時は必ず MET コールすることを義務付けている。
126	アナフィラキシーを疑った場合のマニュアルあり、検査室へ準備。医師・診療放射線技師・看護師にて情報共有
134	医師の立ち合い
142	ICLS 等の受講をした技師がいる
152	アドレナリン注
182	医薬品安全研修会で実施
203	グルカゴン注を検討、準備中
207	フローチャート式のマニュアルを作成し検査室に掲示している
231	RRS コール。
233	急変時対応マニュアルがある
243	訓練は年 2 回実施

⑥-3（アナフィラキシー発生時に対応できる体制を整備している場合）具体的な内容をお答えください。

(n=213)

回答 ID	具体的な内容
1	アナフィラキシーセットを作成している
2	放射線科医に相談してる
4	救急外来と連携する体制をとっている。
5	アナフィラキシーショック時のフロー作成している
6	B L S 等講習 緊急時訓練
9	近くに、救急カート、AED がある。 放射線科医師、麻酔科医師への連絡体制が確立されている。
10	ポスター表示 コードブルー

回答 ID	具体的な内容
11	救急カートにはアドレナリン製剤を載せていて、アナフィラキシー発生時の対応手順（コードブルーを含む）が決められている
12	発生時→救急外来連絡、主治医連絡→対応の仕組みができている
13	放射線科医師、コードブルー、救命救急科への連絡
14	アナフィラキシー対策薬品を撮影室内に常備と医師コール体制。
15	初期対応およびコードブルー・コード放射線（緊急一斉呼び出し）
17	救急コールシステム
18	緊急時のフローチャート掲示や緊急時院内放送の番号表示、またエピペンを常備
19	アナフィラキシー発生時の副作用発生時対応マニュアルを整備している
20	BLS の訓練を受けている。コードブルーで医療スタッフが集まる。
21	救急カート配置
22	患者急変時のフローチャートを貼付している。
23	院内緊急コール（全巻放送）
24	NS が常駐している。アナフィラキシー発生時の連絡体制が決まっている。（マニュアル）
25	医師の口頭指示で、薬剤投与を迅速に実施、患者の状態に合わせて処置室へ移動する。
26	操作室に医師・看護師が常駐 操作室にアナフィラキシー対応フローを大きく掲示
27	院内緊急コール
28	院内救急コール（救命科対応）
29	ハリーコール
30	発生時にすぐに対応できるようにフローチャート表を整備している。
31	マニュアルを整備し、院内救急コールの体制が整っている
32	急変時が起こった場合にコールする医師の順番が決まっていること。また、緊急の場合は院内全体に応援を呼ぶ体制が整っている。
33	救急カートにボスミンのアナフィラキシーセットを作成。
34	放射線科医が近くに常駐している
35	スタットコールによる放射線科医師または救急医師の呼び出しが可能
36	急変時シミュレーションを行っている
37	院内急変コール、RRS コール
38	救急コール時の放射線科、看護師、薬剤師、事務それぞれの役割を明確にしている。アレルギー発生時のカルテ患者基本情報の登録をルール化している
39	緊急コールシステム 院内アルゴリズム
41	CT 室で全体の緊急コールの訓練をしている
42	緊急時マニュアルがあり、マニュアルに沿って対応する。定期的にシミュレーション訓練を行う
44	患者急変時に放射線科医師を呼ぶための呼び出しボタンを設置している。

回答 ID	具体的な内容
45	コードブルー 緊急招集
46	CT 室には救急医薬品を常備しており、すぐに医師・看護師へ救急コールできる体制をとっている。
47	救急カーとなどに薬剤の準備
51	院内全体でドクターコール等急変時対応の決まりがあり、各職種でも訓練を行っている。
52	対応フローを使用
53	救急カートのアドレナリンを全てアンプルからシリンジタイプに変更した、また、造影剤を使用する部署ではアナフィラキシー出現のマニュアルを常に掲示し、誰もがみれるようにしている
54	アナフィラキシーに対応できる薬剤を救急カートに配置している。発生時に Dr コール体制。アナフィラキシー訓練を実施した。
55	対応マニュアルと看護師との訓練、検査室内に最低限の薬剤保管
57	マニュアルを整備しており、必要な薬剤を用意している
58	MET コールにより対応
59	ハリーコール体制の整備。対応フローチャートの表示、訓練。
60	エピペンを常備している
61	発生時の対応フローチャートの整備
62	撮影室にエピペン、バイタルチェックの機材を常備している
64	訓練
65	医師の緊急呼出により対応している
66	院内緊急コールにて医師に知らせることができる。
67	緊急時の院内体制（ハリーコール）
68	放射線科医が対応し救急室に連絡、その後救急室に搬送し、処置
69	救急カードの準備、看護師に教育を実施。院内緊急コールで麻酔科の医師が出向く
70	近傍に救急カートを配置し、アドレナリン、H2 ブロッカー、輸液を常備している。咽頭狭窄等が発生した場合にはエマージェンシーコールにて救命救急医師が対応する。
71	・造影剤を使用する部屋には救急カートを設置し、救急カート内にはアナフィラキシーセットを入れている。（生理食塩水 100ml+ポララミン 1A+ソルメルコート 125 mg の点滴とアドレナリンシリンジ） ・急変時マニュアルを作成 ・救急との連携
72	エマージェンシーコールの周知、放射線技師の定期的な BLS トレーニング、救急カートの設置
74	フロー作成
75	救急外来直通の緊急ボタン(ブザー) を撮影室に設置。院内緊急コールの表示と周知。
76	発生時の対応フローチャートを作成し、常にシュミレートするようにしている。
77	緊急時対応マニュアル

回答 ID	具体的な内容
78	救急カートを設置し、医師が即時に駆けつけることが出来る体制になっている。
79	造影剤急変時の対応マニュアルを常備している。また定期的に安全訓練を行っている。
80	ドパミン注キットの準備（輸液ポンプ）
81	救急コールし、その場、もしくは救急室へ搬送
82	ハリーコール
83	コードブルー（全館放送） スタッフを緊急招集
84	撮影室に救急カートとは別にエピペンを常備している
85	アナフィラキシー発生時の対応マニュアルがある
86	コードブルーによるマンパワー確保 BLS・ICLS 研修等の実施
87	フローチャートを作成している
88	医師、看護師が直ちに対応
90	投与中の造影剤を中止。上級医・救急部医師に迅速に連絡。救急カート・心電図・パルスオキシメーター等準備。バイタルサインの観察およびモニター類を装着。アドレナリン 0.1%0.3～0.5mg 筋注。緊急処置・経過観察できる場所へストレッチャーへ至急移動。
91	マニュアルを用意している
92	救急科の医師に対応してもらうようにフローを作成し実行している
94	救急への連絡体制、院内一斉コール
96	緊急時の非常コールがある。アナフィラキシーの対応を基準を作成し、救急カートに設置している。院内研修会で周知した。
97	C T・MR I 室の隣に読影室があり、放射線科医師が常駐している（通常 2 名）ので、アナフィラキシー発生時は、まず放射線科医師が対応し、必要時は救急室に連絡する。
98	緊急時院内放送（ハリーコール）システムを整備
100	アナフィラキシー発生時は、救急外依頼 RRS（Rapid Response System）起動基準に沿って対応
101	対応フローの整備（軽症時は依頼医師、緊急性が高い場合は全館放送を依頼）
102	救急カート。バックバルブマスク。AED. 生体モニター。院内救急コール（PHS から直接コールできる）
104	放射線科医師の確保、救命救急センターへの搬送体制
105	ドクターコール
106	緊急時の連絡医師を決めて把握して検査を始める。看護師の立ち合いがあり、急変時は対応する手順がある。
107	コードブルー、RRS コール体制 フローチャートの作成、ポケットマニュアルへの掲載
108	救急外来に通じる押しボタンの設置、使用薬剤の セットが作られている。
109	急変時フローチャートの掲示。緊急時の連絡体制の確立。
110	応急処置の具体例をポケットマニュアルに掲載 ハリーコール体制

回答 ID	具体的な内容
111	緊急コールによる呼び出し体制
112	放射線科医が常駐、コードブルー連絡
114	フローを作成し、ポスター掲示している
115	コードブルー体制（館内放送）
117	急変時対応マニュアルを整備して、看護師、放射線技師、医師が協働して対応する仕組みがある。
118	院内でドクターコール体制がある。救急搬送が可能。
120	コードブルーの体制
121	「ドクターハリー」緊急支援要請の体制がある
122	フローチャートの作成とエピペンを常備している。
124	マニュアル整備
126	放射線部門の看護師で2～3回／年訓練・学習会。院内緊急コール体制が敷かれている
127	連絡経路図を掲示している
128	必要に応じて院内ハリーコールを要請する。
129	CT、MR 室の隣が救急外来になっており、すぐに搬送できる
130	造影検査時には医師立ち合いで実施している
131	対応マニュアルがある
132	『アナフィラキシーショック対応マニュアルフローチャート』を医療安全対策室が作成し、全部署へ配布。周知方法として「アドレナリン 0.3mg 筋注」を全職員 e-ラーニングにて行っている。
133	救急医、放射線診断科に連絡し、スタットコールを依頼する
134	医師の立ち合い
135	院内放送を利用
136	ハリーコール体制 救急カートと除細動装置の配備
137	医師の立ち合いによる検査の実施。救急カート整備。 院内緊急コール。
138	検査中の看護師立ち合い 急変コールで対応
139	院内緊急コード発令し、スタッフ召集。
140	発生時のフロー図があり、使用薬剤が明記され、検査室内に掲示されている。
141	フローチャート
142	緊急コール、救急カート、看護師の応援体制、技師の技術向上
143	手順書の整備と、応援体制となる連絡先の表示
144	・アナフィラキシー初期対応薬剤を救急カート に配置（ボスミン） ・アナフィラキシー対応フローチャートの設置 ・緊急時体制の構築
145	救急カート・アレルギー対応薬剤セットの配置 アナフィラキシーが発生した場合は、緊急時院内放送で対応する CT 室は救急室に隣接している

回答 ID	具体的な内容
147	救急当番医師への連絡と目の前の外来看護師を呼び早急な対応する。室内の救急カート完備されている。
149	ブルーコール及び救急外来との連携確認をしている。
150	ボスミン静注が直ぐに行える準備と、対応マニュアルを置いています。
151	院内緊急コールの発動。アナフィラキシーショック時の対応フロー掲示。
152	アドレナリン注 1 c c の常備
153	EM コール、急変対応訓練、救急外来との連携
154	Q43+院内コードブルー
155	院内緊急コール（MET コール）を 24 時間対応できるシステムがある
156	医師立会い
158	マニュアル作成や研修を行っている
159	定期的に多職種でのシミュレーションを行っている
160	アドレナリン投与に関するルール・対応フローを造影室に掲示
161	発生時のフローを見える場所に貼ってあり、救急外来と連携を取れるようにしている
162	院内共通の対策シートあり
163	院内で統一した対応時フローがあり、掲示している。
165	医師、看護師が必ず立ちあう。
166	アナフィラキシー発生用対応マニュアルの掲示・救急カートに硫酸アトロピンを備えている。
167	アナフィラキシーショックの対応マニュアルに準じ対応している。
169	救急カートを準備している。画像診断科医師が近くに常駐している。急変時の連絡先を掲示している。アナフィラキシー対応マニュアルを掲示している。
170	院内でアナフィラキシー対応フローを作成し、表示している
171	救急カートが設置され、アナフィラキシーセット（ボスミン、シリンジ等）がすぐに取り出せるようにしてある。
172	アナフィラキシー対応の整備/RRS 体制/コードブルー体制の整備
174	対応プロトコルの作成とトレーニング、薬剤の準備 院内での救急コール及び RRT の対応
175	放射線科医への連絡と救急外来への搬送。 アナフィラキシーの場合は、隣にある救急外来に搬送するルートができています。
176	コードブルーと RRS で対応している。
178	コードブルー発信にて医師、看護師が現場に駆けつける。
179	手順書を作成し E R と連携をしている。
180	すぐにアドレナリン投与できるように常備している。また緊急時は救急担当医が対応するようになっている。

回答 ID	具体的な内容
181	毎年、BLS 勉強会を行っている。対応フローが整備されており、救急カート近くに掲示してある。MRI 室には、専用の酸素ボンベとアナフィラキシーセットを準備している。
182	「ドクターハート」(PHS で)院内放送、救急カート(AED etc)
183	救急カートを常備している。 救急診察室の横に CT 室がある。
184	放射線科医師、救急科医師が近くにおり、対応マニュアルが作成されている。
185	薬剤配置、緊急連絡先等の構築
186	放射線科医師が駆けつける・コールで看護師 2 名が応援に来る
187	薬剤が素早く使用できるようキット化している
188	EM コール
189	ハリーコールなど
190	コードブルー体制をとっている
191	全ての造影検査で医師が立ち合っていることに加え、急患室医師への直通コール、院内緊急コール(コードブルー)を行えるようにしている。
192	造影剤を使用し、副作用反応がみられたらすぐに放射線科医を検査室に呼び、バイタルチェックなどを行って診察をしてもらいます。アナフィラキシーショックなど重篤な場合は救急外来へ連絡し搬送を行います。
193	マニュアル有り(C T 室救急カートに貼り付け)
194	救急カートの整備、日常点検、院内ハリーコール体制
195	放射線科医師へコール、重篤であれば当日担当する救命医師へコールする。
196	マニュアルの整備
197	医師との連携
198	緊急時用のマニュアルに沿って対応
199	放射線科医が近くにいる。また、院内緊急集合系のコールが整備されている。
200	医師や技師、看護師が互いに動きを把握して理解している。
201	①造影検査は、指示した医師(代わりの医師)が院内にいることになっている。②コードブルー対応
202	救急カート準備、アナフィラキシー対応時 DVD の閲覧
203	救急カートの配置、造影時の看護師の立ち合い
204	救急コール
205	急変時対応マニュアルがある。
206	救急カートの配置と職員召集システムの活用
207	医師の確保、救急外来との連携(EM コール対応マニュアルの作成)
208	ハリーコール
209	院内ルールでコードブルーを発令することになっている。
210	フローチャートを作成し、緊急時の呼び出し体制がある スイッチを押すと、緊急のコールが鳴る

回答 ID	具体的な内容
211	造影検査始業時に、当日の施行予定件数と時刻について、麻酔外来へ連絡。発生時にはスタットコールによる麻酔科医の応援あり。
212	マニュアル作成と掲示、CT 指導時説明している。
213	医師立ち合いで、造影検査を行っている。すぐに対応できるよう、救急カート内に必要物品を整備している。
214	・投与中のくしゃみや掻痒感などのアレルギー反応の確認 ・異変時の看護師、放射線医師への連絡 ・緊急コード発令 ・救急センターへ搬送
215	造影検査始業時に、当日の施行予定件数と時刻について、麻酔外来へ連絡。発生時にはスタットコールによる麻酔科医の応援あり。
216	救急カートの準備、アドレナリンやグルカゴンの準備、スタットコールの発令など。
217	急変時対応訓練
218	ハリーコール
219	発生時の対応マニュアルを表示している。勉強会等を関係職種と開催している。
220	アレルギーマニュアルに沿って対応している
221	連絡体制とハリーコールでの対応
223	院内緊急コールの発動、その訓練
224	連絡先の提示、定期的は訓練の実施
225	医師の連絡の対応順を 3 番目まで決めている。①放射線科 医師、②救急センター医師、③主治医
226	医師又は看護師が必ず検査室に常駐するようにしている。 またドクターコールを一斉放送をかけることができるシステムがある。
228	放射線診断科の医師の常駐 アドレナリンシリンジの準備 「医療事故の再発防止に向けた提言第 3 号」の周知
230	緊急院内コール（スタットコールと呼んでいます）を発令し医師が駆けつけるシステムがある。
231	急変時対応マニュアルを掲示し、定期的にシュミレーションを放射線科各部署で実施している。R R S コールの掲示と活用。
232	救急部へ連絡、AED、救急カート、医師の立ち会い
233	救急処置室にすぐに移送する（連絡網がある）
234	造影剤投与後観察シートを用いて観察している 造影剤によるアナフィラキシー発生時の対応マニュアルがあり沿って行動する 主治医が対応不可の時は、救急科医師、画像診断科医師が対応する
235	急変時の対応訓練、救急部との連携
236	院内緊急コールシステムがあり MET チームを要請する。
237	年 1 回のスタットコール訓練・アナフィラキシー発生時の対応マニュアルがある
238	院内救命コールで救命医と連携して対応できるように体制を整えている

回答 ID	具体的な内容
239	アナフィラキシー発生時の対応フローがあり、急変時対応シミュレーションを部署開催し職員訓練をしている。
240	ER と連携し、造影担当医の判断で ER 医師をコールする仕組みを作っている。
241	必ず医師立会いがある 救急カートを準備している 院内研修で救急処置について学ぶ
242	救急カートの常備、院内 CPR コール体制の確立、放射線診断開始の常駐
243	造影剤副作用発生時対応マニュアル
244	副作用対応マニュアルの作成・表示。エマージェンシーコールシステムによる人員確保。
245	ドクターハリー体制

⑦-1 脳槽・脊髄系など、血管以外に投与する造影剤についてお伺いします。どのような安全対策や工夫をしていますか？

(n=241)

ない（→設問⑧へ）	115	47.7%
ある	126	52.3%

⑦-2 「ある」を選択した方にお伺いします。どのような安全対策や工夫をしていますか？

（複数回答可）

(n=126)

脳槽・脊髄系など血管以外に投与する造影剤は常備配置していない。	26	20.6%
投与経路が異なる造影剤は違う場所に別々に配置している。	81	64.3 %
脳槽・脊髄系の造影剤は施錠管理して配置している。	19	15.1%
その他	22	17.5%

(n=22)

回答 ID	その他内容
25	磯ビスとの企画を赤字でマークしている。
37	専用の箱に「脳槽脊髄用」と明記
66	医師・看護師でダブルチェックしている。
69	配置方法を工夫している
84	医師、看護師、技師で確認を行なう
92	放射線技師と医師とで「脳槽・脊椎系」であることを確認してから投与するようにしている
97	脳槽・脊髄用造影剤は、オーダを確認後、部署に払い出す。

回答 ID	その他内容
99	イソビスト 240 とイソビスト 300 を間違えないように、イソビスト 300 は使用時に取り寄せている
110	検査の都度準備
131	注意事項の表示をしている。検査前に造影剤の種類と名前をチェックしている
132	医師・看護師・（技師）でダブルチェック
135	管理している棚に使用目的を明記している。
176	医師とのダブルチェック
194	投与経路や検査に適した造影剤一覧表を掲示している 保管棚にも用途を表示 検査マニュアル
195	同じ棚だが区別して配置
200	違う棚に置き、夜間、休日は施錠管理している。
217	注意事項
225	保管場所は同じだが、別トレイにし注意喚起し保管している。
229	保管している場所に脊髄用のラベルを貼っている
230	注意喚起の目立つ貼り紙
234	配置場所の注意表示
244	必ず患者ごとに処方入力をしてもらい、患者移動時に持参してもらう。

⑧造影剤の分割使用をしていますか？

(n=241)

していない	209	86.7%
している（分割使用や運用の方法）＊差し支えない範囲でお答えください。	32	13.3%

(n=32)

回答 ID	分割使用や運用の方法の内容
20	心臓カテーテル室にて、パワーインジェクターを使用。患者毎にチューブを交換して造影剤を分割使用している
29	ガストログラフィン。容器に分けて使用。
30	術後のバリウム造影で2名検査する時は分割使用している。
37	心臓カテーテル検査の Z00N Master 使用時。ガストログラフィンを同一日に限り分割使用している。
41	ガストログラフィンについては分割で使用。キャップに開封日を記入し、1週間で破棄している
44	-

回答 ID	分割使用や運用の方法の内容
53	-
68	心臓カテーテル検査時に対応のインジェクターを使用
92	24 時間以上使用しない。逆止弁付きの装置を使用している、患者に接続しているキットは、患者ごとに交換する
99	-
114	-
124	ガストログラフィン
128	血管造影アシスト使用
134	-
138	バイアルの薬剤はシリンジに分割する場合がある
142	経口造影剤を 2 人に分ける
149	心カテ時のみ。インジェクターの仕様で患者をしている。
161	経口造影剤を当日中であれば 2 分割にして使用
163	ガストログラフィンのみ分割使用
167	-
168	アンギオではゾーンマスターアシスト、自動注入装着があり、複数の患者への分割使用が可能
170	ガストログラフィンを必要量をカップに入れ分割使用をしている
173	医師の指示にて放射線技師が造影剤を追加している。
179	心カテなどマシーンに詰めて（100ml）、なくなったら継ぎ足しをしている。
195	ガストログラフィンでは行っているがヨード系造影剤は行っていない。
199	Angio 検査時にバイアルを自動注入器に準備し、検査ごとにチューブ類を交換する。
200	アンギオ 血管造影室 インジェクターシステム
207	1 部の分割使用対応のインジェクターを使用する場合
220	嚥下機能検査
221	心カテ室のアシスト装置使用時
241	V A I V T のときのみ
244	ゾーンマスター心カテ時のみ。

⑨このアンケートの内容全体を通して補足説明や特記すべきことがございましたら、どのようなことでも結構ですのご記入ください。（自由記載）

- ・システムや製剤の採用、現在の管理体制に至った経緯
- ・貴院での取り組みや工夫していること
- ・困っていること

など

(n=36)

回答 ID	フリーコメント内容
6	患者個人情報の共有やカルテ記載、検査時の最終確認が必須である。 検査後の情報取得を検討している。
7	システム内での各種チェック体制は整備しておりますが、システムを活用する側のアナログ的な部分（アラートに気付けるか？いざ夜間救急時等の緊急時にショック対応できるスキルがあるか？など）に不安が残る
10	取り組み・工夫 造影剤の急速投与時の耐圧が保持できるカテーテルの使用取り決め 困っていること 遅発性のアナフィラキシー発現への対策
17	2年前くらいに造影剤に関するお知らせか調査を機に院内の点検をしたところ、薬剤師が関与していなかったり、造影剤の保管に問題があることがわかり、取り組みを行った。 医師の指示や、使用状況の把握など課題はまだあります。
18	電子カルテ更新時にバーコードによる患者認証や eGFR の自動抽出が行える。年に一回研修医と放射線科スタッフを対象に造影剤の勉強会を開催している。
30	病院の特性上、何度も造影検査をする患者さんが多いので副作用に対応するために造影剤の種類を増やしている。
51	アレルギーで治療している方などは慎重投与など曖昧な対応ですが、治療したとしても体質は変わらないと思いますけどどうなのでしょう？全国的な Web セミナーでも放射線科医は治療していればほとんど副作用は出ないから大丈夫などと言っていました、訴訟担った場合どうなるのでしょうか？
56	常勤の放射線科医が不在であること
62	病院機能評価への取り組みで造影検査の危険性を再確認し、検査に臨むようになった。 基本であるが加温すること 必要物品はあらかじめ用意しておくこと 造影剤を注入器にセットする際、タイムアウトでその場の全員が確認している
64	ない
67	造影剤同意書の不備が時々あること。
72	腎機能やメトホルミン製剤に関して、意識が低い医師のいること
78	特になし。
82	なし
89	造影剤の空うち防止のため、注入後はシリンジを外してからインジェクターを戻すようにしている

回答 ID	フリーコメント内容
98	特にありません
105	なし
108	特になし
109	脳脊髄造影剤への注意喚起を検査室で掲示している。
126	多職種で回答せざるを得ない状況だったが、回答者の職種は1つだったため、代表して医療安全部門を記してある
136	他院は、電子カルテなどシステムがデジタル化した中で同意書などは、今だに紙ベースを運用しているのか知りたい
145	造影検査の説明を短時間にすることができず、医師だけでは対応が困難である。そのため、看護師が説明し、問診で重要な内容確認をしている。それに加えて放射線技師も検査前に確認し、エラー回避につながった事例も多い。システム化だけでは難しく、手間暇をかけて安全を担保するしかないような状態です。
152	特になし
163	造影剤副作用の既往がある患者に対するフローを院内で決めている。 使用した造影剤の投与量と投与時間を機械に記録しているが、患者 ID などを記録していないので、これが問題点。
175	造影剤の使用頻度が高い CT・MRI では余剰在庫とならないように放射線技師が管理している。
180	今後の医療安全向上に生かしたいと考え、情報提供をお願いします。
181	造影剤副作用報告の流れ、フローが医療安全マニュアルに明文化してある。報告システムが整備されている。副作用を発症した患者には、造影剤副作用カードを用いて説明し、カードを渡し、携帯することを伝えている。
183	軽いアレルギーをどう対応するか？
194	グルカゴン院内にあるが放射線部には常備していない
216	特にありません。
231	造影剤副作用のアナフィラキシーショック等は一定の割合で発生するので、定期的な対応トレーニングや R R S が迅速にコールできるか個人のスキルを確認している。
234	新型コロナワクチン接種前からアナフィラキシー発生時の対応の強化に取り組み、ポケットマニュアルを作成し職員に配布した。
237	Q 4 5 に関して：当院では脳脊髄系の造影は実施していませんので、45～47 の問いに関しては N A です。 N A 項目がなかったため、こちらにいらさせていただきました。
240	造影剤投与は、全て医師立ち合いで行い、副作用発生時はすぐその場で初期対応ができるようにしている。
241	入院時支援で造影剤使用の際のチェックリストを作成する

回答 ID	フリーコメント内容
242	院内の決まりを守らない診療科（特定の診療科）があり、休日等に独自の使い方で造影剤を使用している。

以 上